

講義科目名称： 基礎看護学特論

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	選択
担当教員			
◎山岸仁美 毛利聖子			
添付ファイル			

授業の目的・概要	看護実践を導く理論の発展過程をたどりながら、日々の看護活動にとっての実践方法論の必要性及び看護実践そのものを学的対象としてとらえるための研究方法論について探究する。
授業計画	<p>1-2回 ガイダンス</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 看護実践の特性と理論とは何かについて 2 看護技術とは何かについて 3 実践領域における理論の発展過程について 4 精読の方法について <p>3-10回 F. Nightingale看護論について</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 『看護覚え書』を精読し、『原文看護覚え書』と照合しながら意味内容と論理構造を取り出し、発表・討議を行う。 2 F. Nightingaleが示した<三重の関心>について、具体的な看護現象とつなげて討議を行う。 3 看護実践における実践方法論の必要性について、研究成果をもとに討議を行う。 <p>11-15回 看護学の発展の方向性について</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 看護諸理論が生まれるまでのプロセスを看護学の発展過程とかさねながら理解する。 <ul style="list-style-type: none"> ・各理論が拠って立つパラダイムと理論を構成する主要概念の意味をむすびつけて理解する。 ・研究成果をもとに討議を行う。 2 『科学的看護論』をもとに看護学の発展の方向性を探究する。
授業形態	講義
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護理論は看護実践そのものから一般化されてきた認識であることがわかる。 2. 看護技術は看護観の表現技術であることを理解する。 3. 実践方法論の必要性について理解する。 4. 看護学研究に不可欠な研究方法論について理解する。 5. 看護一般論の有用性について、自己の実践とむすびつけて理解できる。
評価方法	授業への参加状況（50%）、レポート（50%）による総合評価
教科書	<p>フローレンス・ナイチンゲール：看護覚え書 改訳第7版 現代社 F. Nightingale:NOTES ON NURSING (原文 看護覚え書) 原文看護学選集! 現代社 薄井坦子：科学的看護論 第3版 日本看護協会出版会 そのほか、資料については随時配布</p>
参考書・参考文献	
履修条件	
科目等履修	可
履修上の留意点	
備考・メッセージ	

講義科目名称： 基礎看護学演習

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2	選択
担当教員			
◎山岸仁美 毛利聖子			
添付ファイル			

授業の目的・概要	実践事例の構造分析に取り組み、実践方法論と研究方法論の修得過程を高める。		
授業計画	1回	ガイダンス 学習内容のオリエンテーションと学習課題の確認	
	2-20回	看護実践の再構成と論理の抽出：実践方法論および研究方法論の意識的適用に取り組む 1 自己または他者の看護実践の再構成を行う。 2 目的意識に照らして、論理を抽出する。 3 抽出した論理から実践方法論の修得過程を自己評価する。 4 上記の検討を積み重ね（研究方法論の意識的適用）、実践方法論の修得過程を高めるための方向性を明確にしなが、実践方法論の意識的適用過程を辿る。	
	21-30回	自己の問題意識にそって文献検討を行い、研究課題としての意義を検討し、テーマを明確化し、研究方法を検討する 1 体験に根ざした看護現象から生まれた自己の問題意識に関連する先行研究を選定する。 2 選定した論文を精読し、どのような方法を用いて、どのようなことが明らかになっているのか、自己の問題意識との関連を検討し、看護学研究としての意義を探究し、研究課題を定めていく。 3 研究課題を解明するために必要な研究方法を検討する。 <上記について、プレゼンテーションを行い、討議を積み重ねる>	
授業形態	演習・発表・討議		
到達目標	1 自己または他者の看護実践における看護理論の適用過程を辿る。 2 自己または他者の看護実践から論理を抽出し、実践方法論の修得過程を高めるための方向性を定める。 3 自己の研究課題について、研究方法論に照らして、文献検討を行い、テーマ・目的・研究方法を検討して研究計画を作成する。		
評価方法	参加状況（20%）、レポート（40%）、研究計画書（40%）による総合評価		
教科書	薄井坦子編：ナイチンゲール看護論の科学的実践（1）～（5）現代社		
参考書・参考文献			
履修条件			
科目等履修	可 ただし、関連科目である基礎看護学特論を履修しておくこと		
履修上の留意点			
備考・メッセージ			

講義科目名称： 感染看護学特論

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	選択
担当教員			
◎島内千恵子			
		1 Semester	30時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	自然界における微生物、人体の常在細菌叢の役割、病院内及び市中の感染で問題となっている種々の微生物の特徴や感染経路を踏まえて、感染対策について検討する。
授業計画	1-8回 【病院内および市中の感染で問題となっている微生物の性質】 自然界における微生物の分布と人体の常在細菌叢の役割、病院内および市中の感染で問題となっている微生物の性質 (存在する場所、感染経路、抵抗性、病原性など) 9-15回 【感染対策】 滅菌と消毒 スタンダードプリコーション 感染経路別対策 予防接種 化学療法 サーベイランス 院内教育 Infection Control Nurseの役割 感染症を持つ患者・家族の心理とその援助
授業形態	講義
到達目標	1. 自然界における微生物、人体の常在細菌叢の役割の役割を理解し、病院内および市中の感染で問題となっている微生物について、その特徴を理解する。 2. 感染対策について理解し、適切な実施ができるようになる。
評価方法	授業への参加状況（発表・討論）70%、レポート 30%
教科書	
参考書・参考文献	・吉田真一 他 編「戸田新細菌学」（第34版）南山堂，2013 ・斧康雄編「医療関連感染対策なるほどABC」改訂2版 2013 ・藤本秀士編「わかる！身につく！病原体・感染・免疫」改訂3版，南山堂，2017 ・土肥義胤他編「スタンダード微生物学－保健微生物学・感染症学」第2版，文光堂，2008 ・坂本史衣著「基礎から学ぶ医療関連感染対策－標準予防策からサーベイランスまで」改訂第3版，南江堂，2019 その他、適宜紹介する。
履修条件	－
科目等履修	可
履修上の留意点	
備考・メッセージ	

講義科目名称： 感染看護学演習

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2	選択
担当教員			
◎島内千恵子			
		2セメスター	60時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	<p>人体及び環境からの細菌の検出、同定、薬剤感受性検査、菌株の同一性の識別、洗浄・消毒の効果測定などの実験を行い、検体の処理・取り扱い法、無菌操作など感染制御のための看護実践で必要とされる技術、並びに感染看護学の研究を行うために役立つ方法・技術について検討する。</p> <p>感染看護学領域の問題、研究の動向をふまえて、自己の研究課題を明確にし、研究方法を検討するために、感染看護学領域の国内外の文献の抄読を行い、討論する。</p>
授業計画	<p>1-4回 人体及び環境からの細菌の検出・グラム染色・同定</p> <p>5-8回 洗浄・消毒、手洗い・手袋着用、口腔ケア等の効果測定</p> <p>9-12回 細菌の薬剤耐性検査・同定</p> <p>13-16回 DNA型別など微生物の同一性の識別、細菌の遺伝子の伝達</p> <p>17-30回 感染看護学領域の国内外の文献の抄読・討論</p>
授業形態	演習・実験
到達目標	<p>人体及び環境からの細菌の検出、同定、薬剤耐性検査、同一性の識別、洗浄・消毒の効果測定などの実験を行い、微生物の性質や感染対策への理解を深める。検体の処理・取り扱い法、無菌操作など感染制御のための看護実践で必要とされる技術、並びに感染看護学の研究を行うために役立つ方法・技術について、理解を深める。</p> <p>感染看護学領域の国内外の文献の抄読、討論し、感染看護学領域の問題、研究の動向をふまえて、自己の研究課題、研究方法を明確にする。</p>
評価方法	演習・実験への参加状況（取り組み・討論・発表）50%、レポート50%
教科書	
参考書・参考文献	東京大学医科学研究所学友会編「微生物学実習提要」丸善
履修条件	
科目等履修	可
履修上の留意点	
備考・メッセージ	

講義科目名称： 健康増進看護学特論

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	選択
担当教員			
◎田中美智子・林恵里子			
添付ファイル			

授業の目的・概要	多様な生活を営む人の健康は遺伝的なものだけでなく、環境や生活行動などによっても影響を受けている。外部からの刺激に対して、人がどのように反応するのか、また、どうしてそのような反応をするのかについて明らかにしていく。健康を維持・増進していくための根拠ある支援を検討する。看護学の研究を主に実験的手法を用いて行う様々な研究方法について講義を行う。研究テーマに関連する文献収集、文献レビューを行い、実験的研究をデザインすることについて学ぶ。
授業計画	<p>1回目 オリエンテーション 研究デザインについて（講義）</p> <p>2-4回目 研究デザイン① 実験的研究デザイン：文献の目的・仮説から実験計画を立てる（講義・発表）</p> <p>5-6回目 研究デザイン② 実験的研究デザイン：自分の立てた実験計画と論文の計画を比較、違いや類似点などを明らかにする。（講義・ディスカッション）</p> <p>7-11回目 研究課題に関連する文献抄読 テーマが出てこない場合は、睡眠-覚醒サイクル・呼吸機能・循環機能・ストレス・加齢などについて検討する。それぞれの文献から研究目的（仮説）・計画・結果を読み取り、目的に対して、適切な研究計画が立てられているか、結果に対して考察が適切であるかなど、論文をクリティークする。（講義・ディスカッション）</p> <p>12-14回目 研究課題に関連した研究計画 文献抄読を参考にし、自分の課題の研究計画を検討する。（講義・発表）</p> <p>15回目 まとめ 自ら作成した研究計画に関して発表し、ディスカッションする。</p>
授業形態	講義・演習
到達目標	<p>実験的手法などを用いる研究方法の利点について述べるができる。</p> <p>研究における概念図を作成することができる。</p> <p>自らの介入研究の内容を説明することができる。</p> <p>文献を収集、検討することで、自らの研究内容を主体的に探求することができる。</p> <p>研究からもたらされるアウトカムに関しての意義について言及できる。</p>
評価方法	課題レポート（50%）、講義の態度及び参加度（15%）、発表（プレゼン）（35%）
教科書	特になし
参考書・参考文献	参考文献：Stephen B Hulley et al, Designing Clinical Research. 木原雅子, 木原正博訳. 医学的研究のデザイン. メディカル・サイエンス・インターナショナル, Frederick Grinnell著, The Scientific Attitude, 白楽ロックビル訳 グリンネルの研究成功マニュアル, 共立出版, 福原俊一著, 臨床研究の道標, iHope international.
履修条件	特になし
科目等履修	可
履修上の留意点	
備考・メッセージ	

講義科目名称： 健康増進看護学演習

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2	選択
担当教員			
◎田中美智子、林恵里子			
添付ファイル			

授業の目的・概要	看護学の研究の中で主に健康維持増進につながる研究について、実際の測定・分析法及びデータ解析技術について演習を行い、これらの手法を修得する。
授業計画	<p>1-2回目 オリエンテーション他 オリエンテーションと分析、測定方法とデータ解析技術について（講義）</p> <p>3-20回目 生理学的測定方法 脳波の測定と解析 筋電図の測定と解析 循環動態の測定と解析 呼吸機能の測定と解析 体温調節関連の測定と解析 その他の測定方法と解析</p> <p>21-28回目 生化学的測定方法 ホルモンの測定・解析 酵素活性の測定・解析 その他の測定</p> <p>29-30回目 まとめ 自分の測定結果をプレゼンテーションする。</p>
授業形態	
到達目標	測定、分析方法及び解析方法について具体的に説明できる。 測定、分析、解析方法を的確に選び、遂行できる。測定結果を解釈し、考察できる。 自らの研究目的を描きながら、研究方法やその結果について説明することができる。 正確に測定することができる。
評価方法	課題レポート（40%）、講義の態度・参加度（20%）、発表（プレゼン）（25%）、その他（測定）（15%）
教科書	特になし
参考書・参考文献	特になし
履修条件	健康増進看護学特論を履修していること
科目等履修	不可
履修上の留意点	各項目毎にレポートを提出
備考・メッセージ	

講義科目名称： 基礎看護学特別研究（基礎看護学）

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1～2年	10	選択
担当教員			
◎山岸仁美 毛利聖子			
添付ファイル			

授業の目的・概要	看護理論及び看護技術論に関する研究テーマの明確化、研究計画書の作成、研究素材の収集・分析、論文作成までの過程について指導する。 全過程において対象への倫理的配慮がなされるよう支援する。
授業計画	<p>1-10回 研究課題の明確化 自己の問題意識にそって文献検討を行い、研究課題を焦点化する。</p> <p><ゼミでの検討を積み重ねる></p> <p>11-30回 研究計画書の作成と倫理審査を受ける ・研究課題を解決するための研究対象および研究方法を検討する ・意味あるデータを収集するための研鑽を重ねる ・研究計画書を完成させ、研究倫理審査を受ける</p> <p><ゼミでの検討を積み重ねる></p> <p>31-120回 研究の実施 ・研究計画にそって、データを収集する ・収集したデータについて、信頼性・妥当性を高めながら分析を行う。</p> <p><ゼミでの討議を積み重ね、分析の信頼性・妥当性を確保する></p> <p>121-150回 論文の作成 ・研究目的に照らして、考察の方向性を定め、文献検討を行い分析結果を解釈する。 ・論文としての全体構成を検討し、一貫した論旨で論述できているか吟味しながら、修士論文を完成する。</p>
授業形態	演習・研究
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 自己の問題意識に関連する文献検討を行い、研究課題を明確にすることができる。 2 研究課題の解決に向けて、適切な研究方法を選択し、研究計画を立てることができる。 3 研究計画にそって、意味ある研究データを収集し、分析を行い、論文を完成することができる。
評価方法	研究計画書（15%）、研究方法の的確さ（15%）、最終論文（70%）
教科書	適宜提示する
参考書・参考文献	適時提示する
履修条件	基礎看護学特論および基礎看護学演習を履修していること
科目等履修	不可
履修上の留意点	
備考・メッセージ	

講義科目名称： 基礎看護学特別研究（感染看護学）

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1～2年	10	選択
担当教員			
◎島内千恵子、邊木園 幸			
添付ファイル			

授業の目的・概要	感染看護学に関する研究テーマとその研究法について、文献検討、予備実験等を通して明確にし、研究計画立案、データ収集・分析を行い、論文作成し、発表する。全過程において対象への倫理的配慮がなされるよう指導する。		
授業計画	1年次	感染看護学に関する研究テーマとその研究法について、文献検討、予備実験等を通して明確にしていく	
	2セメスター	研究計画立案 倫理審査	
	3セメスター	研究題目提出、 研究実施（データ収集・分析）	
	4セメスター	論文作成、口頭発表	
授業形態			
到達目標	研究テーマについて十分な文献検討や予備実験を行い、研究計画立案、データ収集・分析、論文作成、発表ができる。		
評価方法	論文・発表（審査・最終試験）		
教科書			
参考書・参考文献			
履修条件			
科目等履修	不可		
履修上の留意点			
備考・メッセージ			

講義科目名称： 基礎看護学特別研究（健康増進看護学）

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1～2年	10	選択
担当教員			
◎田中美智子			
添付ファイル			

授業の目的・概要	ストレッサーの多い環境の中で、ストレッサーによって生じる生体の反応は何か、その反応が生じた仕組みについて明らかにし、ストレス反応の緩和に必要なケアを考える。それにより、健康維持増進の支援についてエビデンスを見出し、論文にまとめる。論文作成の全過程において対象への倫理的配慮ができる。
授業計画	<p>1-10回 研究課題の明確化 自身を取り組む関連の文献を参考に研究課題を検討する。</p> <p>11-30回 研究計画書を立案 ・研究デザインの選択 ・対象者の選択 ・データ収集方法及びデータの分析方法の検討 ・プレテストの実施及びデータの分析方法の修得 ・研究計画書の作成</p> <p>31-40回 研究倫理申請書の作成 ・申請書の作成 ・申請後の研究計画の見直しなど</p> <p>41-120回 研究の実施 ・研究計画にそって計画を実行する。 1. 研究協力の依頼 2. データ収集 3. データ分析 4. 結果の解釈 5. 分析結果の考察</p> <p>121-150回 修士論文の作成 ・緒言から考察までの一連の流れで、論文を執筆し、作成する。 ・論文の結果を表す図表を作成する。</p>
授業形態	演習・研究
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究課題に関連する文献検討を行い、研究の動向を探索し研究課題を明確にすることができる。 2. 明確化した研究課題に関して、適切な研究方法を選び、研究計画を立てることができる。 3. 明確化した研究課題に関して、研究を実施し、論文を完成することができる。
評価方法	研究計画書（15%）、研究方法の的確さ（15%）、最終論文（70%）
教科書	適宜提示
参考書・参考文献	適宜提示
履修条件	健康増進看護学特論及び健康増進看護学演習を履修していること
科目等履修	不可
履修上の留意点	
備考・メッセージ	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	選択
担当教員			
◎長鶴美佐子 ◎濱寄真由美			
応用看護学分野	母子看護学・助産学領域	30時間	
添付ファイル			

授業の目的・概要	人間が持つ「いのちを次代へとつなぐ素晴らしい働き」、いわゆる生命の連続性に関わる様々な健康問題や課題について、生活過程、家族、教育、社会、文化などの幅広い視点からその成り立ちや問題構造などを学ぶ。その上で、生命の連続性に関わる看護の役割と方向性、求められる研究について理解を深める。講義方法は、文献検討、討議、支援の実際の見学などを予定している。
授業計画	<p>1-2回 ガイダンス・「生命の連続性と健康問題」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習目標・目的、学習課題と進め方について確認する。 ・生命の連続性に関わる人々の身体的・心理的・社会的発達と特徴と、近年生じている生命の連続性を脅かす健康問題について理解を深めていく。 <p>3-4回 「ライフサイクルから見た生命の連続性支援」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ライフサイクルから見て、生命の連続性を支える働きがどのように発達し衰退していくのかを概観する。次に、この働きが著しく発達し開花する思春期・性成熟期に焦点をあてながらこの時期の人々への理解を深める。 <p>5-13回 「生命の連続性を脅かす健康問題」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生命の連続性を脅かす代表的な健康問題について、当事者の認識、生活過程や家族関係、社会背景などの視点から理解を深める。さらに看護実践の現状と課題から、看護の方向性について検討する。 <p><主な健康問題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・月経に関連する問題（月経困難症・子宮内膜症・月経不順などの問題） ・望まない妊娠と人工妊娠中絶 ・性感染症 など <p>14-15回 「生命の連続性と研究」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上記の学習を踏まえながら生命の連続性支援のために取り組むべき研究課題と求められる研究的視点について検討する。
授業形態	講義
到達目標	<p>① 生命の連続性に関わる健康問題について、生活過程、家族、教育、社会、文化などの視点からその成り立ちや問題構造などを理解する。</p> <p>② 生命の連続性に関わる看護の役割とその方向性について理解を深める。</p> <p>③ 生命の連続性支援のための研究課題と研究的視点について検討する。</p>
評価方法	授業への参加度（70%）、レポート（30%）
教科書	指定なし
参考書・参考文献	適宜紹介する
履修条件	
科目等履修	可
履修上の留意点	機会があれば思春期健康支援の実際の見学を入れる予定である。
備考・メッセージ	「問題意識を持ち自ら学ぶ」を基本方針とした授業の展開です。状況によっては受講生と相談の上で遠隔授業を行うことがあります。

講義科目名称： 母性看護学・助産学演習

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2	選択
担当教員			
◎長鶴美佐子 ◎濱寄真由美			
応用看護学分野	母子看護学・助産学領域	60時間	
添付ファイル			

授業の目的・概要	生命の連続性支援に関する研究論文の講読を通して、研究についての理解を深める。また、自己の研究テーマを追究する上で必要とされる研究手法への理解を深め、実践に向けた基礎的能力を培う。
授業計画	<p>1-2回 ガイダンス・「文献とは」</p> <p>① 学習目標・目的、学習課題と進め方について確認する。 ② 看護研究のための文献について理解する。 研究における文献の意義、種類、検索方法、文献の読み方（文献のクリティークを含む）、文献の活用と管理、等。</p> <p>3-15回 「論文を読む」 論文の購読とクリティーク</p> <p>① 論文の購読 ② 各自が興味ある（原著）論文を読み、紹介する。 （研究目的・方法、看護の意義、オリジナリティ、明らかになったことや限界など） ③ 論文のクリティークを行う このプロセスの中で「様々な研究方法」や「研究の進め方」論文作成方法 「研究知見の社会化」などについて学習していく。</p> <p>16-30回 文献レビュー</p> <p>① 研究における文献レビューの必要性と方法 ② 取り上げたい研究課題に関する文献レビューを行いレポートする。 これまでどのような研究がなされ、どこまで明らかになっているか、残された課題は何か、なぜそれが明らかにされていなかったのかなどを検討する。</p>
授業形態	講義
到達目標	①看護研究における文献の意義、種類、検索方法、読み方、活用方法等について理解を深める。 ②研究論文の講読を通して、様々な研究方法、実践方法、研究論文作成や社会化のプロセスなどについて理解する。 ③自己の研究課題に関する文献レビューを行い、その必要性と方法を理解する。
評価方法	授業への参加度50%、レポート50%
教科書	適宜紹介する
参考書・参考文献	適宜紹介する
履修条件	母性看護学・助産学特論を履修していること
科目等履修	可
履修上の留意点	
備考・メッセージ	論文を読みこむことを通して研究する力を身につける科目であり、積極的な学修参加が求められます。状況によっては受講生と相談の上で遠隔授業を行うことがあります。

講義科目名称： 成人看護学特論

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	選択
担当教員			
◎久野暢子、矢野朋実、山岡深雪（研究指導補助教員）			
添付ファイル			

授業の目的・概要	健康障害を抱える成人とその家族を理解し、質の高い看護援助を提供する上で基礎となる看護理論、看護モデル、概念等について、講義や討議などから理解を深める。
授業計画	<p>1-2回 【ガイダンス】【理論・モデルの概要の理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業内容の紹介と学習課題の確認 ・ 「中範囲理論」とは ・ 「エンパワーメント」の概要と事例への適用について学ぶ。 <p>3-12回 【理論・モデルの概要の理解】</p> <p>指定テキストにある</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「病気の不確かさ理論」 ・ 「症状マネジメントモデル」 ・ 「リフレクション」 ・ 「アンドラゴジー（成人教育）」 ・ 「ヘルスビリーフモデル」 ・ 「病みの軌跡」 <p>などの中範囲理論を選択し、概要と事例への適用について学ぶ。</p> <p>13-15回 【まとめ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学んだ理論・モデルの自己の研究課題への応用についてプレゼンテーションする。
授業形態	講義
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康障害を抱える成人とその家族への看護援助に関連する看護理論・看護モデル・概念を理解できる。 2. 学んだ看護理論・看護モデル・概念を看護実践や看護研究への適用の視点から考えることができる。
評価方法	授業への参加態度・プレゼンテーション（70%）、レポート（30%）
教科書	野川道子編著：看護実践に活かす中範囲理論 メジカルフレンド社
参考書・参考文献	随時紹介します。
履修条件	
科目等履修	
履修上の留意点	
備考・メッセージ	履修者の研究課題により学修する中範囲理論や順番を考慮します。 履修者と相談のうえ、遠隔授業とする場合もあります。

講義科目名称： 成人看護学演習

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2	選択
担当教員			
◎久野暢子、矢野朋実、山岡深雪（研究指導補助教員）			
添付ファイル			

授業の目的・概要	健康障害を抱える成人・家族、看護援助、研究方法および自己の研究課題に関連するテーマでの文献クリティックや討議を行い、自己の考えをより多角的・多面的に深める。またこの過程を通じて、研究計画書作成の基礎的能力を養う。
授業計画	<p>1回 【ガイダンス】 ・授業内容の紹介と学習課題の確認</p> <p>2-11回 【先行研究のクリティック】 ・成人看護に関連した先行研究をクリティックする。</p> <p>12-23回 【成人看護における課題の検討】 ・成人看護において関心のある課題についてレビューし、現状や残された課題は何かなどをまとめ、プレゼンテーションする。</p> <p>24-30回 【研究課題や研究デザインの検討】 ・成人看護における特定のテーマや課題が自己の研究にどのように関連しているか、またその課題に関する先行研究の結果をどのように自己の研究に取り入れることが可能かについて、本科目での学びを活かしてまとめ、表現する。</p>
授業形態	演習
到達目標	<p>1. 健康障害を抱える成人とその家族への看護援助に関連した研究論文の文献クリティックができる。</p> <p>2. 1を通じて、自己の研究計画書を洗練するための検討ができる。</p>
評価方法	授業への参加態度・プレゼンテーション（70%）、レポート（30%）
教科書	
参考書・参考文献	<p>D. F. ポーリット&C. T. ベック著：看護研究 原理と方法 第2版 医学書院</p> <p>坂下玲子他：系統看護学講座別巻 看護研究 医学書院</p> <p>山川みやえ、牧本清子：研究手法別のチェックシートで学ぶよくわかる看護研究論文のクリティック 日本看護協会出版会</p>
履修条件	
科目等履修	
履修上の留意点	
備考・メッセージ	検討する文献は履修者が用意し、事前に提示してください。

講義科目名称： 老年看護学特論

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	選択
担当教員			
◎重久加代子			
添付ファイル			

授業の目的・概要	社会的自立を果たした人々が、加齢変化や健康上の問題を抱えながら、自分の持てる力を生かして日常生活を営むための看護に必要な看護理論や生老病死について学ぶ。
授業計画	<p>1回 ガイダンス 研究の動機について</p> <p>2回～7回 「持てる力を生かした日常生活とは」 加齢変化や健康上の問題が日常生活におよぼす事柄について検討 持てる力を生かした日常生活について検討</p> <p>8回～11回 「生老病死とは」 生老病死について学習し、自分の考えをまとめ・発表</p> <p>12回～14回 「ケアリングと看護実践」 ケアリングについて学習し、これまでの看護実践より検討</p> <p>15回 「まとめ」 学びの総括</p>
授業形態	講義・演習
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 加齢変化や健康上の問題が日常生活におよぼす事柄について理解を深める。 2. 持てる力を生かした日常生活について考えることができる。 3. 生老病死について学びを深め、自分の考えを述べるができる。 4. ケアリングについて理解を深める。
評価方法	授業への取り組み（50%）、レポート（50%）より評価する。
教科書	特に指定しない。
参考書・参考文献	随時紹介する。
履修条件	なし
科目等履修	
履修上の留意点	なし
備考・メッセージ	主体的な学習への取り組みが求められます。

講義科目名称： 老年看護学演習

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2	選択
担当教員			
◎重久加代子			
添付ファイル			

授業の目的・概要	関心のあるテーマに沿って文献検索、研究論文クリティークを通して、既存の知見と研究手法、看護への理解を深める。また、研究に関する倫理指針、データ収集方法及びデータ分析方法について学び、研究計画書を作成する。
授業計画	<p>1回 「ガイダンス」 研究課題について</p> <p>2回～3回 「関心のあるテーマに沿った論文の文献検索」 文献検索を行い、まとめ・発表</p> <p>4回～7回 「論文のクリティーク」 関連する文献のクリティーク（量的研究・質的研究）、まとめ・発表</p> <p>8～11回 「研究のテーマと目的の検討・研究計画書の検討」 文献検討に基づき、研究テーマと目的の検討、まとめ、発表</p> <p>12回～15回 「研究方法と分析方法の検討・研究計画書の検討」 文献、看護研究の方法より学びを深め、研究方法と分析方法の検討、まとめ・発表</p> <p>16回～19回 「文献検索および文献検討・研究計画書の検討」 研究テーマ・目的の検討より、再度文献検索・文献検討を行い、まとめ・発表</p> <p>20回～23回 「研究における倫理的配慮の検討・研究計画書の作成」 研究における倫理的配慮の検討を行い、まとめ・発表 研究計画書の作成・発表</p> <p>24回～29回 「研究計画書の作成・調査の準備」 研究計画書に基づいて、調査の準備 倫理審査の申請書の作成</p> <p>30回 「研究計画書の完成」 研究計画書の見直し、完成</p>
授業形態	集中講義・演習
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 関心のあるテーマに沿った論文の文献検索を行う。 2. 論文のクリティークを行う。 3. 文献検討を行う。 4. 看護研究に関する本を1冊精読する。 5. 研究に関する倫理指針を理解する。 6. 文献検討に基づき、研究テーマ、目的、方法を検討し、研究計画書を作成する。
評価方法	授業への取り組みと課題の達成状況より評価する。
教科書	特に指定しない。
参考書・参考文献	随時紹介する。
履修条件	
科目等履修	
履修上の留意点	
備考・メッセージ	看護研究の本を繰り返し読み、自分が現在どの位置で、何に取り組んでいるのかを確認しながら、1つ1つ丁寧に進めていきましょう。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	選択
担当教員			
◎川原瑞代、小野美奈子、川村道子			
添付ファイル			

授業の目的・概要	健康社会づくりや、在宅療養支援、精神的援助を必要とする人々への自立支援における看護の方法について学ぶとともに、看護職固有の機能について追究する。
授業計画	<p>1・2回 【授業オリエンテーション】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業目的、すすめ方について ・地域看護の対象と看護の特徴について確認する。 ・地域看護に関わる自己の問題意識を明確化する。 <p>3-8回 【精神的援助を必要としながら地域で生活する人々への看護の方法と看護職固有の機能を理解する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他者からの精神的援助を必要とするに至るまでの過程を、社会生活の構成要素の視点から検討する。 ・精神的援助を必要としながら地域で生活する人々の生活実態を文献や事例から整理し、看護職固有の機能を理解する。 ・精神的援助を必要とする人々への自立支援における看護の方法を明確化する。 <p>9-10回 【在宅療養者とその家族への支援の現状と課題について考察する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・諸資料より、日本における在宅療養者とその家族への支援の現状と課題を考え、それらを解決する看護の役割や方法について考察する。 <p>11-12回 【在宅療養者の健康と生活を支援するために基盤となる理論や概念を理解する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在宅療養者の健康と生活を支援するために基盤となる理論や概念を理解する。 <p>13-14回 【訪問看護師の活動事例から学ぶ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訪問看護師の活動事例から、在宅看護の基盤となる理論や概念と関連させて考察し、在宅療養者や家族、生活環境や支援システムについてアセスメントする方法を理解する。 <p>15回 まとめ</p> <p>※感染状況により、対面授業ができない場合は遠隔授業により対応する。</p>
授業形態	講義
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 地域看護の対象と看護の特徴について、自己の問題意識と重ねて理解する。 2 精神的援助を必要としながら地域で生活する人々への看護の方法について理解する。 3 在宅療養支援における看護の在り方を諸理論や実践事例と重ねながら理解する。 4 地域で生活する人々への支援における看護職固有の機能について理解する。
評価方法	授業への参加状況・プレゼンテーション（60%）、レポート（40%）
教科書	適宜紹介する
参考書・参考文献	適宜紹介する
履修条件	
科目等履修	可
履修上の留意点	
備考・メッセージ	履修者の専門性を踏まえ授業内容を考慮します。詳細は授業開始後、講義計画で提示します。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2	選択
担当教員			
◎川村道子、小野美奈子、川原瑞代			
添付ファイル			

授業の目的・概要	<p>(オムニバス方式) 健康社会づくりや、在宅療養支援、精神的援助を必要とする人々への自立支援における看護過程を分析する方法を学ぶ。 (小野) 実践事例を基に看護過程を客観視し分析する力、地域看護を評価する力を高めるとともに、研究能力向上を目指した演習を行う。 (川原) 地域包括システム の概念や発展過程を理解し、文献や自己の実践活動から現状と課題について分析する。また、地域診断や個別事例のアセスメントから健康課題解決に向けPDCAサイクルを基盤とすることの意義を理解する。 (川村) 人間の精神の働きに注目し、人々がどのような状況でも自らの精神を健康に働かせることができる支援について検討していく。検討に相応しい研究論文を講読し、あらゆる人々の精神の健康を高めることに資する研究課題、研究方法について考察する。 (平野) 精神障がい者の生活支援やケアネットワーク形成について考察する。</p>
授業計画	<p>1-7回 【地域看護の概念について理解を深める】 ・地域看護実践、教育、研究を構成する概念を規定し説明する。</p> <p>人間、家族、地域、生活、健康、病気、環境、生活機能、生命力、セルフケア、自己決定、対象特性、看護、地域看護、予防、行動変容、保健指導、看護観、ケアシステム、ネットワーク、連携、ケアマネジメント、社会資源 等</p> <p>8-10回 【地域看護における研究方法について理解する】 ・地域看護における研究方法について理解する</p> <p>11-13回 【健康課題解決に向けて取り組んだ実践を客観視する方法を学ぶ】 ・地域診断や個別事例の看護実践から、対象の健康課題解決に向けた自己の取組を振り返り、健康課題解決に向けPDCAサイクルを回す意義について考察する。</p> <p>14-17回 【地域包括ケアシステムにおける看護の役割について考察する】 ・地域包括ケアシステム の概念を理解し、実践事例や先行研究よりその構築の在り方や現状と課題を考察し、看護者の担う役割について議論する。</p> <p>18-20回 【在宅療養者と家族への看護について課題を明確化する】 ・在宅療養者と家族への看護について関心のある課題について文献検討やフィールドワークを行い、それらを自己の実践と重ねながら、課題解決に必要な方法について議論する。</p> <p>21-30回 【精神の健康を高めることに資する研究課題と研究方法を検討する】 ・先行研究を精読しクリティークすることを通して、人々がどのような状況でも自らの精神を健康に働かせることができる支援に繋がる看護職者の課題を探る。 ・あらゆる人々の精神の健康を高めることに資する研究課題と研究方法を検討する。</p> <p>*担当教員は全て、保健所あるいは医療機関（病院）での勤務経験をもち、そこでの実務経験をもとに担当項目について話をします。</p>
授業形態	演習
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域看護実践を説明する自己の考え方を明確化できる。 2. 地域看護における研究方法について理解する。 3. 地域看護の展開においてPDCAサイクルを基盤とすることの意義を理解する。 4. 地域包括ケアシステムや在宅療養者と家族への支援について、看護職の果たす役割や課題について考察する。 5. 精神の健康を高めることに資する研究課題と研究方法を検討する。
評価方法	<p>授業への参加状況・プレゼンテーション（70%）、レポート（30%）</p> <p>■受講者が健康社会づくりや、在宅療養支援、精神的援助を必要とする人々への自立支援における看護過程を分析する方法について、演習を通して習得していく。従って、演習におけるディスカッションのための資料作成、プレゼンテーション、ディスカッションの運営、を評価観点とする。</p> <p>■最終的に在宅療養支援、精神的援助を必要とする人々への自立支援について修得したことをレポートする。評価観点は、演習と自らの看護体験を土台にした自己の看護観の発展として記述されているか、他の履修科目から積み上げられてきた学修の中身が具体的に記述されているか、他者に伝わる論述になっているか、提示した指定の形式を遵守した記述となっているか、を評価観点とする。</p>
教科書	適宜紹介します
参考書・参考文献	適宜紹介します
履修条件	

科目等履修	可
履修上の留意点	
備考・メッセージ	履修者の専門性を踏まえ授業内容を考慮します。詳細は授業開始後、講義計画で提示します。

講義科目名称： 公衆衛生看護学特論

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	選択
担当教員			
◎平野かよ子、中尾裕之、中村千穂子、松本憲子、高橋秀治			
添付ファイル			
授業の目的・概要	(オムニバス方式) 公衆衛生看護の歴史・理念、公衆衛生看護活動、地域の健康づくり、健康増進を目指した地域の活性化、ヘルスプロモーションの理念に基づいた保健活動、地域診断の考え方や診断結果の効果的な活用法について学ぶ。		
授業計画	1回 講義概要とオリエンテーション (平野) 科目のねらい、授業スケジュール 公衆衛生看護の歴史・理念 2-5回 公衆衛生看護活動における地域診断 (松本) ・公衆衛生看護活動の目的と対象 ・地域診断と診断結果の効果的な活用法 6-9回 地域の健康づくりとヘルスプロモーション (中村) ・ヘルスプロモーションの理念に基づいた保健活動 10-12回 地域社会づくりや予防的な健康支援 (高橋) ・健康格差、アドボカシー (advocacy)、CBPR: Community-Based Participatory Research 13-15 公衆衛生看護に必要な疫学と統計 (中尾) ・疫学指標 ・バイアスと交絡因子 ・基本的な統計量の性質 ・統計的有意差検定の考え方		
授業形態	講義、演習		
到達目標	1. 公衆衛生看護の歴史、理念を理解することができる。 2. 公衆衛生看護活動における地域診断と診断結果の活用ができる。 3. 健康教育に用いる基礎理論と展開過程について説明できる。 4. 他職種連携や地域住民とのコミュニケーションスキルを身に付ける。 5. 疫学と統計における、基本的な用語とその概念について説明できる。		
評価方法	講義・演習への参加状況 (50%) , 学習成果物 (50%)		
教科書	適宜提示する。		
参考書・参考文献	適宜提示する。		
履修条件			
科目等履修			
履修上の留意点			
備考・メッセージ			

講義科目名称： 公衆衛生看護学演習

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2	選択
担当教員			
◎平野かよ子 中尾裕之 中村千穂子 松本憲子 高橋秀治			
添付ファイル			

授業の目的・概要	<p>(オムニバス方式) 公衆衛生に関するデータの文献講読・レビュー、健康支援についての実践演習、データ解析演習を行う。 (平野) 公衆衛生看護活動の見せる化と活動の効果評価方法について演習を行う。 (中尾) 統計解析ソフトウェアや表計算ソフトウェアを用いて、データ解析演習を行う。 (中村) 健康教育の実践について、企画立案、指導案作成から、実施、評価について演習を行う。 (松本) 公衆衛生看護活動における自己の課題に対する世界の動向、我が国の状況、および法的基盤やこれまでの活動状況について文献を用いて考察する。 (高橋) 地域における生活習慣病予防に関する文献をもとに研究方法を理解するとともに、今後の公衆衛生看護の研究課題を考察する。</p>
授業計画	<p>1-2回 講義概要とオリエンテーション (平野) 本科目のねらい、授業の進め方 公衆衛生看護活動の見せる化と活動の効果評価</p> <p>3-10回 健康支援の実践演習および評価 (松本) 自己の実践活動に関する我が国の動向や施策を整理する。また、自己の保健活動に関するデータを用いて評価を行う。</p> <p>11-18回 文献講読および健康教育 (中村) 行動変容理論を活用した健康教育に関する文献講読 健康教育企画書・指導案作成・実施・評価</p> <p>19-24回 公衆衛生看護活動における生活習慣病予防活動 (高橋) 地域における生活習慣病予防活動に関する文献講読</p> <p>25-30回 データ解析演習 (中尾) ・エクセルでのデータマネージメント ・EasyRを用いたデータ解析 ・SPSSを用いたデータ解析</p>
授業形態	講義、演習
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. データを用いて保健活動を評価することができる。 2. 行動変容理論を活用した健康教育の実践ができる。 3. 自分自身の健康支援法を行動変容理論に基づいて解析することができる。 4. 表計算ソフトウェアや統計解析ソフトウェアを使って、基本的なデータ解析ができる。 5. 地域における生活習慣病予防に関する研究課題を考察することができる。
評価方法	講義への参加状況 (50%) , 講義内外での学習成果物 (50%)
教科書	適宜提示する。
参考書・参考文献	適宜提示する。
履修条件	公衆衛生看護学特論を履修していること。
科目等履修	
履修上の留意点	
備考・メッセージ	

講義科目名称： 応用看護学特別研究(母性看護学・助産学)

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1～2年	10	選択
担当教員			
◎長鶴美佐子 ◎濱寄真由美 壹岐さより			
応用看護学分野	応用看護学特別研究	1～2年次	
添付ファイル			

授業の目的・概要	生命の連続性に関わる様々な健康問題や課題、支援の現状などから抱いた問題意識を整理し研究テーマとリサーチクエスチョンを設定する。それを踏まえ、十分な倫理的配慮がなされた研究計画書の作成、データ収集、論文の作成、公表と一連の研究過程をたどりながら、研究実践力を学ぶ。
授業計画	<p>I. 研究課題・テーマの設定 【1年前期】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自己の問題意識から研究課題を設定する。 2. 文献検討により研究課題の構造などを見きわめ、取り組む研究テーマを設定する。 3. 取り組む研究テーマの研究の概念枠組みまたはリサーチクエスチョンを設定する。 <p>II. 文献検討に基づく研究計画の立案 【1年前期～後期】 必要かつ十分な文献検討に基づき、研究計画の立案を行う</p> <p>III. 研究手法の理解 【1年前期～後期】 取り組む研究テーマに応じた研究手法に関する理解を深める。</p> <p>IV. 研究倫理申請と審査 【1年後期】 立案した研究計画について、研究倫理審査を受けるための書類を作成し審査を受ける。</p> <p>V. データ収集と分析 【1年次後期～2年次前期】 関係機関との連携を取りながら、データ収集を行う。必要なデータ分析方法の学習を行いながらデータ分析をすすめる。</p> <p>VI. 研究論文作成 【2年次後期】 研究成果を論文としてまとめる。</p> <p>VII. 研究成果の審査と発表 【2年次後期】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 論文の審査をうける。 2. 研究成果を修士論文発表会にて発表する。 3. (主要な学会発表に向けてエントリーを行う。)
授業形態	個別指導
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自己の問題意識を整理し、研究課題・テーマを設定することができる。 2. 必要かつ十分な文献検討を行い研究計画を立案できる。 3. 適切なデータ収集・分析ができる。 4. 研究成果を論文としてまとめ、発表することができる。
評価方法	研究に取り組む姿勢 (50%)、研究成果 (40%)、プレゼンテーション (10%) にて評価する
教科書	なし
参考書・参考文献	適宜紹介する
履修条件	母性看護学・助産学特論および母性看護学・助産学演習科目の単位を取得していること (又は見込みであること)
科目等履修	否
履修上の留意点	
備考・メッセージ	状況によっては受講生と相談の上で遠隔授業を行うことがあります。

講義科目名称： 応用看護学特別研究（成人看護学）

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1～2年	10	選択
担当教員			
◎久野暢子 ◎矢野朋実			
添付ファイル			

授業の目的・概要	健康障害を抱える成人とその家族への看護援助に焦点を当て、質の高い看護援助を目指した看護ケアの開発等に関する論文指導を行う。研究遂行にあたって必要な倫理的配慮がなされるよう指導する。
授業計画	<p>1回 【ガイダンス】 ・本科目の概要、授業計画など</p> <p>2-50回 【研究課題の明確化～研究計画書作成、研究倫理審査の申請】 ・自己の研究課題に関連した文献のクリティーク並びに先行研究の総括 ・研究課題と研究目的の明確化 ・研究デザインの選択 ・研究方法の設定 ・以上を踏まえた研究計画書の作成と研究倫理審査の申請</p> <p>51-100回 【データ収集及び分析】 ・研究倫理審査で承認された研究計画に則った研究データの収集と分析</p> <p>101-150回 【研究論文の作成】 ・研究目的に照らした研究データの分析と考察 ・研究論文全体の構成の検討 ・一貫性を持った論述 ・以上を踏まえた研究論文の作成</p>
授業形態	演習
到達目標	<p>1 自己の研究課題に適した研究目的・方法を設定し、倫理的配慮をもって研究データを収集できる。</p> <p>2 得られたデータを研究目的に照らして分析・考察し、一貫性を持って論述できる。</p> <p>3 科学的・客観的・倫理的な態度で研究に取り組むことができる。</p>
評価方法	研究論文作成への取り組み、研究論文の内容、論文審査でのプレゼンテーションと質疑
教科書	
参考書・参考文献	
履修条件	
科目等履修	
履修上の留意点	
備考・メッセージ	

講義科目名称： 応用看護学特別研究（老年看護学）

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1～2年	10	選択
担当教員			
◎重久加代子			
添付ファイル			

授業の目的・概要	社会的自立を果たした人々が、加齢変化や健康上の問題を抱えながら、自分の持てる力を生かしてQuality of lifeの維持・向上を実現するための看護について研究指導を行う。また、研究の倫理指針に基づいて倫理的配慮を行い、実施上の問題に適切に対処しながら、研究のプロセスを学び論文を作成する。
授業計画	<p>4月～5月 「ガイダンス・研究計画書に基づいてデータ収集」 研究計画書に基づき、研究実施の準備状況、今後の計画を発表する。 調査の準備を行う。 調査を開始し、データを収集する。</p> <p>6月～7月 「データの分析」 収集したデータを整理する。 データを分析する。</p> <p>8月～9月 「結果の整理」 結果を図、表にまとめる。 論文の構成を検討し、結果まで（序章・文献検討・研究方法・結果）を記述する。</p> <p>10月～11月 「考察の記述」 分析した結果と文献検討の内容を比較検討する。 文献を用いて、考察を行う。</p> <p>12月 「論文の作成」 論文の構成に基づき、論文を記述する。 図、表、資料を見直し、完成する。</p> <p>1月～3月 「論文の完成」 論文を見直し、完成度を高める。 図、表、資料を見直し、完成度を高める。 審査（発表）のためのパワーポイントを作成する。 論文を完成する。</p>
授業形態	集中講義・演習
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究計画書に基づき、データ収集を行う。 2. 収集したデータを分析する。 3. 研究目的に沿って分析した結果をまとめ、記述する。 4. 分析した結果について文献を用いて考察し、記述する。 5. 論文を完成する。
評価方法	授業への取り組みと課題の達成状況で評価する。
教科書	特に指定しない。
参考書・参考文献	随時提示する。
履修条件	
科目等履修	
履修上の留意点	
備考・メッセージ	倫理指針に基づいて、課題と真摯に向き合い、論文を完成できるように取り組みましょう。

講義科目名称： 応用看護学特別研究（地域・精神看護学）

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1～2年	10	選択
担当教員			
◎小野美奈子 ◎川原瑞代 ◎川村道子			
添付ファイル			

授業の目的・概要	健康社会づくりや、在宅療養支援、精神的援助を必要とする人々への自立支援における、自己の問題意識を社会の現状や先行研究に照らして課題を焦点化する。課題解決のためにふさわしい研究方法を選択し、研究対象者への倫理上の配慮を行い、倫理的妥当性を持った研究計画立案、データ収集・分析の過程の個別指導を行いながら論文作成を支援する。 (小野) 家族支援、地域での看護に関する研究 (川原) 在宅ケアに関する研究 (川村) メンタルヘルス、精神疾患患者の退院支援に関する研究
授業計画	1-10回 研究課題の明確化 自己の問題意識に沿って文献検討を行い、研究課題を焦点化する。 11-30回 研究計画の立案 ・研究デザインを選択する。 ・研究フィールドの調整と対象者の選定を行う。 ・データ収集方法及びデータの分析方法を検討する。 ・プレテストを行う。 ・研究計画書を作成する。 31-40回 研究倫理申請書の作成と倫理審査を受ける ・研究倫理申請書の作成と倫理審査を受ける。 ・審査結果を基に、研究計画内容の修正を行う。 41-120回 研究の実施 ・研究計画にそって倫理的配慮を行いながら計画を実行する。 1. 研究協力の依頼する 2. 倫理的配慮を行いながらデータを収集する 3. 信頼性、妥当性をたかめながらデータを分析する 4. 結果を解釈する 5. 考察する 121-150回 修士論文の作成 ・緒言から考察までの一連の流れで、論文を作成する。
授業形態	演習・研究
到達目標	1. 自己の問題意識を社会の現状や先行研究に照らして課題を焦点化することができる。 2. 課題解決のためにふさわしい研究方法を選択し、研究計画を立てることができる。 3. 研究計画に沿って、研究を実施し、論文を完成することができる。
評価方法	研究計画書(15%)、研究方法の的確さ(15%)、最終論文(70%)
教科書	適宜提示する
参考書・参考文献	適宜提示する
履修条件	地域・精神看護学特論及び地域・精神看護学演習を履修していること
科目等履修	不可
履修上の留意点	
備考・メッセージ	

講義科目名称： 応用看護学特別研究（公衆衛生看護学）

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1～2年	10	選択
担当教員			
◎平野かよ子 ◎中尾裕之 ◎中村千穂子 ◎松本憲子 高橋秀治			
添付ファイル			

授業の目的・概要	個人や集団に関する健康問題に関して、公衆衛生看護の視点をもって、研究計画を立案し、論文の作成を行う。 （平野）公衆衛生看護活動の質的な評価方法をテーマとし、できるだけ実践者と協働する研究的な取り組み方法を学び、論文を作成する。 （中尾）健康問題の把握、健康課題への対策の検討、実施した対策の評価に関することを研究テーマとして、データを収集・分析し、論文を作成する。 （中村）ヘルスプロモーション活動の推進をめざし、地域診断や活動評価について分析し、論文を作成する。 （松本）個人や集団また、地域における保健活動そのものを研究対象とし、これからの公衆衛生看護に必要な知見を見出すことを目的として、研究論文を作成する。
授業計画	1-45回 研究計画の立案 研究計画の立案 文献検討，データ収集方法の検討，関係機関との調整，倫理審査 46-90回 データ収集 文献検索・整理，インタビュー実施・入力，調査票配布・回収・入力 91-120回 データ分析・結果の考察 解析，テーブルの作成，結果の解釈，文献再検討，考察 121-150回 論文作成 考察，方法，結果，イントロ，参考文献，要旨の作成
授業形態	研究
到達目標	1. 文献検討によって，最新の研究動向を把握することができる。 2. 妥当で信頼性が高く，そして，実施可能な研究計画を立案できる。 3. 最新の研究動向をふまえて，分析結果を考察することができる。 4. 論文を作成することができる。
評価方法	論文
教科書	適宜提示する。
参考書・参考文献	適宜提示する。
履修条件	公衆衛生看護学特論および公衆衛生看護学演習を履修していること。
科目等履修	
履修上の留意点	
備考・メッセージ	

講義科目名称： 公衆衛生看護学原論Ⅰ

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	1	必修
担当教員			
◎松本憲子 平野かよ子			
添付ファイル			

授業の目的・概要	我が国の公衆衛生及び公衆衛生看護の歴史、基本理念、目的、対象を理解する。また、地域・学校・産業領域における健康問題の予防と解決のために地域住民や関係者と協働して活動する方法の概要を理解する。
授業計画	<p>1回 オリエンテーション 公衆衛生看護学の定義 (平野)</p> <p>2回 公衆衛生の歴史① 公衆衛生、公衆衛生看護の歴史：第2次世界大戦前～昭和 (平野)</p> <p>3回 公衆衛生看護の歴史② 戦後昭和～令和 (平野)</p> <p>4回 方法論① 対象1：個人・家族の日常生活の理解と把握地域の相対的把握 (平野) 市町村での保健師活動 (特別講師)</p> <p>5回 方法論② 対象2：集団、地域の相対的把握 (地区診断)、活動の場 (平野) 県型保健所の保健師活動 (特別講師)</p> <p>6回 方法論③ 活動:個別支援、集団対応、ネットワーク・システム形成 (平野)</p> <p>7回 方法論④ 活動計画等の策定、輻輳的活動展開 (平野)</p> <p>8回 基本理念 総合性、公共性、エンパワメント、アウトリーチ、合議等 (平野) まとめ (松本)</p> <p>※担当教員は全員保健所や市町村での勤務経験があり、この実務経験をもとに講義を行います</p>
授業形態	講義、演習
到達目標	<p>1. 公衆衛生看護の歴史、基本理念を理解する。</p> <p>2. 公衆衛生看護の目的は、地域の人々が安心して主体的に自らと地域の健康課題の解決に取り組み、保健師は住民・関係者と協働した地区活動を展開することを理解する。</p> <p>3. 公衆衛生看護の対象である生活者、生活集団、地域全体の捉え方の概要を理解する。</p> <p>4. 地域住民が自らの健康・生活問題を捉え、問題解決の主体となるよう、地域の関係者等と協働して支援する活動方法の概要を理解する。</p> <p>5. 保健活動の計画 (企画)、施策化の概要を理解する。</p>
評価方法	講義への参加 (40%)、レポート (60%)
教科書	保健学講座1 公衆衛生看護学概論 メヂカルフレンド社
参考書・参考文献	<p>新版 保健師業務要覧 第4版 2022年版 日本地域看護協会出版会</p> <p>地域特性に応じた保健活動 ライフ・サイエンス・センター</p> <p>実践地域看護学 建帛社</p> <p>ふみしめて50年：保健婦活動の歴史 厚生省健康政策局計画課監修</p> <p>ふみしめて70年 日本公衆衛生協会</p> <p>無銘の語り保健師が「家族」に出会う12の物語 医学書院</p>
履修条件	
科目等履修	
履修上の留意点	
備考・メッセージ	

講義科目名称： 公衆衛生看護学原論Ⅱ

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	1	必修
担当教員			
◎松本憲子			
添付ファイル			

授業の目的・概要	公衆衛生看護学原論Ⅰの講義と演習、実習等の科目を履修した後に、公衆衛生を担う保健師の活動方法や独自性や、公衆衛生看護専門職の職業倫理について学ぶ。
授業計画	<p>令和4年度開講せず</p> <p>1－3回 オリエンテーション（松本） 公衆衛生看護の展開方法（平野） 講義・演習・実習を踏まえ、体験した活動事例等の分析を通して活動展開方法を学ぶ</p> <p>4回 公衆衛生看護に求められる倫理 保健師の職業倫理（平野）</p> <p>5－6回 保健師の専門性（平野） 自らの言葉で、「私が考える保健師の機能、保健活動の理念」を発表し、討議する</p> <p>7－8回 まとめ（松本） 公衆衛生、公衆衛生看護を取り巻く世界・我が国の動向と今後の課題</p> <p>※担当教員は全員保健所や市町村での勤務経験があり、この実務経験をもとに講義を行います</p>
授業形態	講義、演習
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習での支援経験と学内での学習を統合し、公衆衛生看護の展開方法の同時性を理解する。 2. 保健師の専門性について自らの言葉を説明できる。 3. 専門職業人としての職業倫理を説明できる。 4. 公衆衛生・公衆衛生看護を取り巻く社会情勢を理解し、公衆衛生看護の今後の課題について論議する。
評価方法	講義への参加度（60％）レポート（40％）
教科書	公衆衛生を担う保健師の専門性 実践地域看護学
参考書・参考文献	
履修条件	
科目等履修	
履修上の留意点	
備考・メッセージ	

講義科目名称： 地域診断論

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	1	必修
担当教員			
◎松本憲子 高橋秀治 河野朋美			
添付ファイル			

授業の目的・概要	保健師の地区活動の基本となる地区診断について、意義と技法について理解する。地域診断に必要なデータの種類を知り、データを活用してアセスメントする方法について理解する。また、地域の健康課題の抽出方法について知り、健康課題の優先順位決定方法の理解を深める。
授業計画	<p>1回 地域診断の概念 地域診断の定義 目的・理論 コミュニティアズパートナーモデル・プリシード・プロシードモデル 活動対象把握のための地区診断</p> <p>2回 地域診断のプロセス① 情報収集 地域アセスメントのためのデータ源と収集方法</p> <p>3回 地域診断のプロセス② アセスメント 地域のアセスメント 母子を対象としたアセスメント</p> <p>4回 地域診断のプロセス③ アセスメント 成人及び高齢者を対象としたアセスメント</p> <p>5回 地域診断のプロセス④ 地域の健康課題の明確化 優先順位の考え方</p> <p>6回 地域診断のプロセス⑤ 計画</p> <p>7回 地域診断プロセス⑥ 評価</p> <p>8回 まとめ</p> <p>※担当教員は全員保健所や市町村での勤務経験があり、この実務経験をもとに講義を行います</p>
授業形態	講義 グループワーク
到達目標	<p>①対象地域の基本構造を把握するための項目、人口集団の概要を把握するための項目について説明できる。</p> <p>②アセスメント（地域診断）のためのデータ源、データ収集方法、データ分析方法について説明できる。</p> <p>③収集した情報をアセスメントし、地域特性や健康課題について説明できる。</p> <p>④健康課題の優先度の判断について説明できる。</p> <p>⑤地域アセスメントに基づいて、健康課題解決のための新たな組織化、施策化、社会資源の開発、システム構築の必要性について説明できる。</p>
評価方法	講義への参加状況（40％）レポート（60％）
教科書	保健学講座2 公衆衛生看護支援技術 メヂカルフレンド社
参考書・参考文献	
履修条件	
科目等履修	
履修上の留意点	地域診断論演習と連動して講義を展開する。
備考・メッセージ	

講義科目名称： 地域診断論演習

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	必修
担当教員			
◎高橋秀治			
保健師養成分野	実践公衆衛生看護学専門科目 I	1 Semester	60時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	資料収集・地区踏査により、健康課題をアセスメントし、地域の顕在化している課題のみならず潜在的な課題を抽出する。地区特性に基づく健康課題の検討、社会資源、地区組織、NPO・NGO、住民組織など、コミュニティを支える集団・組織や住民との協働を基盤とした保健活動計画（評価計画含む）を立案し、プレゼンテーションを行う。
授業計画	<p>第1-2回 地域診断 演習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ・アズパートナー・モデルなどの地域診断枠組みを理解するため、地域診断実例文献を抄読し、ディスカッションを行う <p>第3-4回 データ収集と分析（量的データ-地理的情報の統合）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・e-statを用いて既存の統計データの収集、活用方法について理解する ・GIS（Geographic Information System;地理情報システム）を使用し、受け持ち地区の情報を可視化し、空間的な地域の特徴を理解する方法を学習する <p>第5-6回 領域・対象別アセスメント 演習</p> <p>母子・成人（高齢者）を対象としたアセスメントについて、資料をもとに理解する。</p> <p>第7-8回 データ収集と分析（質的データ-地区踏査）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地区視診、インタビュー、フォトボイスなどの手法を理解する。 ・インタビュー調査のロールプレイを行う ・質的データの収集計画を立案する <p>第9-10回 データ分析、地域診断資料作成</p> <p>第11-12回 データ分析、地域診断資料作成</p> <p>第13-14回 地域診断結果 中間報告</p> <p>地域診断の結果についてプレゼンテーションを行い、ディスカッションを通して検討事項や今後の地域診断の方向性を明確にする。</p> <p>第15-16回 データ分析、地域診断資料作成</p> <p>第17-20回 データ分析、地域診断資料作成</p> <p>第21-24回 データ分析、地域診断資料作成</p> <p>第25-27回 データ分析、地域診断資料作成</p>

	<p>第28-29回 地域診断 最終報告 地域診断結果及び公衆衛生看護活動計画についてプレゼンテーションを行い、学生・教員・保健師とのディスカッションを行う。</p> <p>第30回 地域診断 まとめ</p>
授業形態	演習
到達目標	<p>1. 地域診断の概念・関連する理論（モデル）・地域の人々の生活と健康の情報を収集する方法を理解し、計画・実践できる</p> <p>2. 地域の健康課題の抽出に必要な量的・質的データを情報収集し、分析できる</p> <p>健康課題を抽出するために情報を統合し、地域の強み弱みに着目しながら、アセスメントができる。</p> <p>3. 地域の人々の生活と健康の情報をアセスメント・分析し、生活・健康の特徴を明らかにすることができる</p> <p>4. 情報収集、分析・健康課題抽出、計画、実施、評価までの一連の過程（地域診断）が、地区活動の展開と地域ケアシステムへと発展する過程であることを理解することができる</p>
評価方法	演習への取り組み状況や内容：30% 課題のプレゼンテーション：30% 授業への参加度：40%
教科書	岸恵美子・平野かよ子・村嶋幸代：保健学講座 2公衆衛生看護支援技術、メヂカルフレンド、2022. 佐伯和子編著：地域看護アセスメントガイド第2版、医歯薬出版、2018.
参考書・参考文献	Elizabeth T. Anderson, Judith McFarlane：金川克子、早川和生監訳：コミュニティーアズパートナー 地域看護学の理論と実際 第2版、医学書院、2007. 金川克子、田高悦子編：地域看護診断 第2版、東京大学出版会、2011. 平野かよ子、尾崎米厚：事例から学ぶ保健活動の評価、医学書院、2001.
履修条件	
科目等履修	
履修上の留意点	地域診断論と連動して授業を展開する
備考・メッセージ	

講義科目名称：健康づくり活動論 I

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	必修
担当教員			
◎高橋秀治			
保健師養成分野	実践公衆衛生看護学専門科目 I	1 セメスター	30時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	ライフステージ別の保健医療福祉政策の動向と健康課題に関連する法・制度を学び、健康の維持・向上あるいは健康・生活問題を解決する保健活動方法を理解する。
授業計画	<p>第1-5回 母子保健（担当：松本）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・母子保健医療福祉の動向と今後の課題（リプロダクティブヘルス・ライツ、ジェンダーと性の多様性、少子化と示せ台育成支援施策、性と生殖に関する医療と生命倫理、健やか親子21、妊娠・出産包括支援事業、周産期メンタルヘルス） ・母性各期と乳幼児期の保健指導 ・母子保健活動の実際 ・支援ニーズが高い親子の健康課題と支援 ・女性のライフサイクル各期の健康課題と支援 <p>第6-10回 成人保健（担当：高橋）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成人保健医療福祉動向と今後の課題 ・成人期の保健活動、 ・特定健診保健指導、重症化予防保健指導（高血圧症、糖尿病、脂質異常症）、 ・データヘルス計画・健康増進計画 ・NDBの活用 ・保健行動の理解とアセスメントに基づく支援（理論・モデルを用いた保健行動の理解） <p>第11-14回 高齢者保健（担当：高橋）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者保健医療福祉の動向と今後の課題、 ・高齢者の健康課題と支援、高齢者への保健活動の実際 ・介護予防 ・地域包括ケアシステム ・高齢者虐待、セルフネグレクト <p>第15回 実習先のライフステージ別の保健活動の保健体系図の作成 実習先のライフステージ別の保健活動の保健体系図の作成し、現状と課題についてプレゼンテーションを行う。</p>
授業形態	講義
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ライフステージ別・健康課題別の保健医療福祉政策の動向と健康課題に関連する法・制度が記述できる。 2. ライフステージそれぞれの健康課題と必要な支援を記述できる。 3. ライフステージ各期における保健師の支援の基本的な考え方を説明できる。
評価方法	参加状況20%、発表30%、課題50%から総合的に評価する。
教科書	岸恵美子・村嶋幸代：保健学講座 3 公衆衛生看護活動展開論, メヂカルフレンド, 2022.
参考書・参考文献	
履修条件	
科目等履修	
履修上の留意点	
備考・メッセージ	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	必修
担当教員			
◎松本憲子			
添付ファイル			

授業の目的・概要	複雑困難な健康課題を有する人々を支援する能力を養うことを目的として、各種健診未受診者等、結核、精神、難病患者、虐待事例等への支援の実際の具体的な事例を通し、支援を求めない人々、制度の網目から抜け落ちる人々、複雑困難な健康課題を有する人々を支援する能力を養う。		
授業計画	1-2回	オリエンテーション 人々の精神の健康への支援① 人々の精神の健康に関する法制度と動向 人々の心の健康づくり 精神疾患・精神障害による療養者の理解と支援 精神疾患・精神障害者を対象とした地域連携支援システムの構築の方法	(松本) (特別講師)
	3-4回	人々の精神の健康への支援② 精神福祉保健センターの役割 精神福祉保健福祉センターにおける支援の実際	(特別講師)
	5-6回	虐待予防 虐待に関連した法制度、動向 虐待の予防と対応における保健師の役割 虐待事例から虐待予防を目的としたネットワークや保健師の活動について 虐待予防に関する社会資源について	
	7回	発達障害のある人々への支援 発達障害に関連した法制度と動向 発達障害のある児の理解と支援と保健師の役割 発達障害のある児(人)の親への支援 発達障害のある児(人)とその家族への支援のために行われている事業・施策や支援システムについて	(松本)
	8-9回	障害のある児への支援① 発達障害児のアセスメント 心理士の役割と保健師との連携の実際	(特別講師)
	10-11回	障害のある児への支援② 言語障害のある児のアセスメント 言語聴覚士の役割と保健師との連携の実際	(特別講師)
	12-13回	難病を持つ人々を対象とした支援 難病に関連した法制度と動向 難病疾患を持ちながら地域で生活する人々の理解と支援 難病疾患を持ちながら生活する方の事例から地域連携支援システムや保健師の役割について	(特別講師)
	14-15回	難病疾患を持ちながら地域で生活する人々の理解と支援 難病疾患を持ちながら生活する方の事例から地域連携支援システムや保健師の役割について 感染症に罹患している人々への健康への支援 感染症に関連する法制度と動向 主な感染症の理解と保健活動 感染症予防について	(特別講師) (松本)
	※担当教員は全員保健所や市町村での勤務経験があり、この実務経験をもとに講義を行います		
授業形態	講義、演習		
到達目標	1. 対象地域の基本構造を把握するための項目、人口集団の概要を把握するための項目について説明できる。 2. アセスメント(地域診断)のためのデータ源、データ収集方法、データ分析方法について説明できる。 3. 収集した情報をアセスメントし、地域特性や健康課題について説明できる。 4. 健康課題の優先度の判断について説明できる。 5. 地域アセスメントに基づいて、健康課題解決のための新たな組織化、施策化、社会資源の開発、システム構築の必要性について説明できる。		
評価方法	講義への参加(40%) レポート(60%)		
教科書	保健学講座2 公衆衛生看護支援技術 メヂカルフレンド社 2022		
参考書・参考文献			
履修条件			
科目等履修			
履修上の留意点			
備考・メッセージ			

講義科目名称：健康づくり活動論Ⅲ

授業コード：

英文科目名称：Health Promotion Activity Theory Ⅲ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	1	必修
担当教員			
◎河野朋美			
保健師養成分野	実践公衆衛生看護学専門科目Ⅰ	1 Semester	15時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	学校・産業における場や対象の特性を理解し、組織的に展開されている保健活動の実際を学ぶとともに、養護教諭や産業保健師（看護職）の役割を考察する。学校保健や産業保健と行政保健の共通点・相違点、行政・学校・産業の連携や協働におけるあり方、課題などについても検討する。
授業計画	<p>1回 オリエンテーション 学校保健活動の変遷と現状 6月6日（月）2限</p> <p>2-3回 学校保健活動の実際 6月16日（木）3・4限 【特別講師】 穆佐小学校養護教諭 長倉莉穂氏</p> <p>4-5回 産業保健活動の実際Ⅰ 6月23日（木）3・4限 【特別講師】 旭化成株式会社延岡支社 産業保健師 赤木真希子氏</p> <p>6-7回 産業保健活動の実際Ⅱ 6月30日（木）3・4限 宮崎県産業保健総合支援センター訪問</p> <p>8回 まとめ 7月7日（木）3限 学校・産業・行政における保健活動の共通点や特徴、連携や協働のあり方について発表、ディスカッション</p> <p>※特別講師は学校または産業における保健師活動の経験を有しています。担当教員は行政における保健師活動の経験を有しています。</p>
授業形態	講義
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学校における保健活動の概要が理解できる 2. 産業における健康管理の特徴を理解できる 3. 学校、産業、行政における保健活動の共通点と相違点から協働と連携について考えることができる
評価方法	レポート60% プレゼンテーション40%
教科書	適宜資料を配布
参考書・参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・保健学講座 公衆衛生看護活動展開論 メヂカルフレンド社 ・公衆衛生看護学テキスト第4巻 公衆衛生活動Ⅱ 学校保健・産業保健 医歯薬出版 ・国民衛生の動向 ・職場の健康が見える 産業保健の基礎と健康経営 メディックメディア ・学校保健マニュアル 南山堂
履修条件	
科目等履修	
履修上の留意点	
備考・メッセージ	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2	必修
担当教員			
◎平野かよ子			
添付ファイル			

授業の目的・概要	保健師が担う公衆衛生看護におけるマネジメント機能、特に管理的な立場の保健師が担う管理について概説する。この管理の一端として健康危機である事前災害や感染症の集団発生時の管理について概説する。
授業計画	<p>令和4年度開講せず</p> <p>1回 オリエンテーション 公衆衛生看護管理とは</p> <p>2回 公衆衛生看護管理の諸理論</p> <p>3回 管理的立場の保健師の役割・機能の理解</p> <p>4回 都道府県等の本庁における保健師の役割を理解する</p> <p>5回 看護管理、健康危機管理に応用される諸理論 リーダーシップ論、組織管理理論</p> <p>6回 人材育成、キャリアラダー</p> <p>7回 個別支援・集団対応に関連する事例管理、情報管理、事例検討等による人材育成</p> <p>8回 保健活動の業務管理 活動の稼働量、必要保健師数の算定</p> <p>9回 活動の評価</p> <p>10回 計画の策定・施策化、予算管理</p> <p>11回 発災に向けた平常時の準備</p> <p>12回 災害時の管理体制と管理的保健師の役割 受援体制、派遣支援体制</p> <p>13回 感染症拡大防止における管理体制、パンデミックの対応</p> <p>14回 保健師等の安全保障 住民等からの暴力防止の組織的対応</p> <p>15回 まとめ</p> <p>※担当教員は全員保健所や市町村での勤務経験があり、この実務経験をもとに講義を行います</p>
授業形態	講義・演習
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生看護活動には、地域住民への支援であるケア機能と活動を円滑に進めるための連携調整や地域の課題の解決に必要な仕組みづくりである企画・立案等のマネジメント機能について理解する。 2. 保健活動の評価を行う体制を築くことの必要性を理解する。 3. 保健師が担う地域管理、組織運営管理、事例管理、業務管理、予算管理、情報管理、人事管理等、地域資源の質保証の管理機能を理解する。 4. 保健師が担う人材育成機能を理解する。 5. 健康危機時に求められる管理機能と健康危機を予防する管理機能について理解する。
評価方法	授業への参加度（40％）、レポート（60％）
教科書	保健学講座2 公衆衛生看護支援技術 メヂカルフレンド社 2022
参考書・参考文献	災害時の保健活動推進マニュアル 2020 日本公衆衛生協会/全国保健師長会
履修条件	
科目等履修	

履修上の留意点	
備考・メッセージ	

講義科目名称： 看護政策論

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	1	必修
担当教員			
◎平野かよ子			
添付ファイル			

授業の目的・概要	看護に関連する法制度の概要と政策形成過程を理解し、政策形成における看護職の役割を理解する。		
授業計画	1回	オリエンテーション 我が国の看護施策 医療をめぐる社会情勢と看護・保健の重点課題	
	2回	看護の法制度 保健師助産師看護師法 看護師等人材確保法	
	3回	医療に関する法制度 医療法 診療報酬制度	
	4回	保健福祉の法制度	
	5回	法制度の制定と改正 関心のある法制度の制定から改正の経緯の分析	
	6回	看護政策の政策形成過程	
	7回	身近な課題の政策立案	
	8回	政策案の発表 まとめ	
	※担当教員は全員保健所や市町村での勤務経験があり、この実務経験をもとに講義を行います		
授業形態	講義・演習		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 今日の社会情勢を鑑み、医療、看護等の社会保障、保健等の公衆衛生の課題を概観する。 2. 保健・福祉、医療と政治・経済の関連を理解する。 3. 医療と看護に関連する法制度を理解する。 4. 看護関連の政策形成と看護職の役割を理解する。 5. 法制度の制定と改正について理解する。 		
評価方法	授業への参加度（40%）、レポート（60%）		
教科書	看護管理学習テキスト看護第1巻 ヘルスケアシステム論 日本看護協会出版会 2022 看護サービス管理 第5版 医学書院 2022		
参考書・参考文献			
履修条件			
科目等履修			
履修上の留意点			
備考・メッセージ			

講義科目名称： 地域ケアシステム論

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	1	必修
担当教員			
◎平野かよ子			
添付ファイル			

授業の目的・概要	地域ケアシステム の概念や地域ケアシステムの分析方法を理解し、ケアシステム構築において住民や関係者との調整、合意形成、協働を促進する方法を理解する。
授業計画	<p>1回 オリエンテーション システムとは:システム理論、ネットワーク論と保健活動</p> <p>2回 保健活動における連携 地域住民や関係者とのつながり・交流の把握</p> <p>3回 「地域づくりとケアシステム 住民の活動への参加、住民との協働</p> <p>4回 ネットワーク 組織内の連携 組織外の関係機関との連携（特別講師：押川敬視）</p> <p>5回 地域との連携 システム化の事例分析①</p> <p>6回 地域との連携 システム化の事例分析②</p> <p>7回 連携、ネットワーク化、システム化における保健師の役割 調整、協議の活性化合意形成</p> <p>8回 まとめ</p> <p>※担当教員は全員保健所や市町村での勤務経験があり、この実務経験をもとに講義を行います</p>
授業形態	講義、演習
到達目標	<p>1. システム及びネットワークの概念を理解する。</p> <p>2. 地域の人々のつながりによる活動を把握し、保健師の関わりを理解する</p> <p>3. 組織内外の保健医療従事者の連携を理解する</p> <p>4. 地域ケアシステムの構築・維持・発展における保健師の役割を理解する</p>
評価方法	授業への参加態度（40%）、レポート（60%）
教科書	保健学講座 2 公衆衛生看護支援技術 メヂカルフレンド社 2022
参考書・参考文献	保健活動事例集（2012）日本公衆衛生学会公衆衛生看護の在り方検討会
履修条件	
科目等履修	
履修上の留意点	
備考・メッセージ	

講義科目名称： 地域ケアシステム論演習

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	1	必修
担当教員			
◎平野かよ子 松本憲子 高橋秀治 河野朋美 佐藤信人			
添付ファイル			

授業の目的・概要	地域ケアシステム論で理解した地域ケアシステムの理解（ケアシステム構築に向けた住民や関係機関との合意形成と協働を促進する方法等）を基として、地域ケアシステムを用いて地域の課題やニーズを明らかにし、関係機関と協働して、理解する方法や事業化、施策化及び社会資源の開発に地域ケアシステムを活用することを理解する。また、地域ケアシステムの形成、運用における保健師の役割を理解する。		
授業計画	1～2回	オリエンテーション 改めて地域ケアシステムとは	
	3～4回	地域ケアシステムの実際① 行政が主導するシステムと保健師の役割：市町村の会議	
	5～6回	地域ケアシステムの実際② 住民が主導するシステムと保健師の役割：本郷地区協議会	
	7～8回	地域ケアシステムの構造化 参加した地域ケアシステムの構造分析	
	9～10回	事例分析 地域ケアシステムの構築活動事例の分析 分析結果のプレゼンテーション	
	11～12回	高齢者の地域ケアシステム 椎葉村の事例（特別講師）	
	13～14回	集団形成 実際に集団の一員になり、集団過程を体験する。（佐藤信人先生）	
	15回	集団形成、システム構築における保健師の役割 宮崎市の児童虐待における地域ケアシステム（特別講師） まとめ ※担当教員は、保健所や市町村での勤務経験があり、個の実務経験をもとに講義を行います。	
授業形態	講義、演習		
到達目標	1. 様々な地域ケアシステム事例を分析し、その構造を明らかにする。 2. 保健師の活動や事例から様々な領域で展開される地域ケアシステムを理解し、システムの構築・維持・発展に関わる保健師の役割・機能を理解する。		
評価方法	授業への参加度（50%）、レポート（50%）		
教科書			
参考書・参考文献	保健師活動事例集、日本公衆衛生学会、公衆衛生看護の在り方検討会、2012		
履修条件			
科目等履修			
履修上の留意点			
備考・メッセージ			

講義科目名称： 個別支援方法論演習

授業コード：

英文科目名称： Issues in Individual Support Methodology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	1	必修
担当教員			
◎河野朋美			
保健師養成分野	実践公衆衛生看護学専門科目 I	1セメスター	30時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	対象に合わせた効果的な個別支援について学び、保健師にとって必要な個別支援のスキルを修得する。さらに「個」から「集団」かつ「集団」から「個」という保健師の視点についても理解を深め、個別支援の意義や役割を考える。
授業計画	<p>1回 オリエンテーション 個別相談の種類と対象別アプローチ 5月11日(水)1限</p> <p>2回 電話相談・家庭訪問 5月11日(水)2限</p> <p>3回 演習① 電話相談 5月17日(火)1限</p> <p>4回 演習② 計測・観察 5月17日(火)2限</p> <p>5回 成人・高齢者の個別支援 特定保健指導 5月24日(火)1限</p> <p>6回 保健指導媒体作成 5月24日(火)2限</p> <p>7～8回 施設見学・体験実習 5月25日(水)1・2限 清武子育て支援センター など</p> <p>9～10回 演習③ 家庭訪問(母子・成人) 6月7日(火)1・2限</p> <p>11～12回 乳幼児健康相談・乳幼児健康診査における個別支援 6月15日(水)1限</p> <p>13～14回 演習④ 乳幼児健康診査の問診場面での相談 6月27日(月)1・2限</p> <p>15回 まとめ・ふりかえり 7月6日(水)3限 個別支援から地域へと広げる保健師活動事例など</p> <p>※担当教員は全員保健師としての個別支援活動の経験を有します。</p>
授業形態	講義・演習
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象や場に合わせた個別支援方法の特徴を理解し、その手技を実施できる 2. 特定保健指導における相談の展開を理解・実施できる 3. 訪問指導における計画の立案・実施・評価ができる 4. 乳幼児健診における問診時のポイントを理解し、実施できる 5. 個別支援から集団支援、集団支援から個別支援へと展開される保健師の視点を学ぶことができる
評価方法	演習80% レポート20%
教科書	保健学講座 公衆衛生看護支援技術、公衆衛生看護活動論 メヂカルフレンド社 写真で見る乳幼児健診の神経学的チェック法 南山堂
参考書・参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・特定健診・特定保健指導ガイド 南山堂 ・宮崎市幼児健康診査マニュアル ・健診とことばの相談 1歳6か月健診と3歳児健診を中心に ぶどう社 ・発達の子 白石正久 かもがわ出版 <p>(DVD)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目で見る子どもの保健 医学映像教育センター ・乳幼児健診の手引き 第1巻～3巻
履修条件	
科目等履修	
履修上の留意点	
備考・メッセージ	

講義科目名称： 集団支援方法論演習

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	1	必修
担当教員			
◎高橋秀治			
保健師養成分野	実践公衆衛生看護学専門科目 I	1 Semester	30時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	個人の生活背景やそれを取り巻く地域社会の構造を理解しながら、個人・家族・集団・地域の健康課題を明確化し、かつそれらを関連付けて対処していく保健師の基本技術を理解する。
授業計画	<p>第1-2回 公衆衛生看護に求められる機能・技術、生活者とその個人、家族、集団、地域</p> <p>第3-4回 健康教育 ・健康教育の定義、目的、目標、対象と場 ・健康教育の技術 ・健康教育媒体 ・健康教育の展開</p> <p>第5-6回 他者に伝わるデザインの基本</p> <p>第7-10回 健康教育 演習 ・企画書、指導案、媒体の作成</p> <p>第11-12回 健康教育 演習 健康教育のデモンストレーションを行い、教員・学生間でフィードバックを行う。 企画書・指導案等を修正する。</p> <p>第13-15回 地域組織活動 地域組織活動の歴史、地域組織活動とは 地域組織活動の展開、保健師の役割 演習：地域組織の実際</p>
授業形態	講義・演習
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保健師の活動展開・支援技術の基本的な考え方が理解できる。 2. 家族及び集団の行動変容に関する諸理論が理解できる。 3. 集団・地域の健康課題に応じ、生活様式・価値観等に配慮した保健指導（健康教育、地域組織活動）が理解できる。 4. 集団・地域の支援の際に、地域の人々や関係者・関係機関と協働する方法を理解できる。
評価方法	授業への参加度：40%、演習への取り組み状況：30%、プレゼンテーション：30%
教科書	岸恵美子・平野かよ子・村嶋幸代：保健学講座2 公衆衛生看護支援技術、メヂカルフレンド社、2022.
参考書・参考文献	
履修条件	
科目等履修	
履修上の留意点	
備考・メッセージ	

講義科目名称： 公衆衛生看護管理・健康危機管理論演習

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	1	必修
担当教員			
◎松本憲子			
添付ファイル			

授業の目的・概要	行政における公衆衛生看護管理の必要性、地域住民の健康を保持増進し、生活を守るための保健活動の質を保證する機能と役割について事例を通じた演習を行う。また、特定地域の健康危機管理に関する情報収集、地区踏査を行い、特定地域の課題解決について検討する。
授業計画	<p>令和4年度開講せず</p> <p>1－3回 公衆衛生看護管理 情報管理、事例管理、組織運営管理、業務事業管理、予算管理</p> <p>4－6回 感染症対策 感染症の発生予防及び発生予防教育、発生時の対応、関係機関との連携、またその管理体制・評価について</p> <p>7－9回 虐待・DV 虐待/DVの発生予防及び発生予防教育、発生時の対応、関係機関との連携、またその管理体制・評価について</p> <p>10－12回 自殺対策 自殺の発生予防及び発生予防教育、発生時の対応、関係機関との連携、またその管理体制・評価について</p> <p>13－15回 災害対策 災害等の発生予防及び発生予防教育、発生時の対応、関係機関との連携、またその管理体制・評価について</p> <p>※担当教員は、保健所や市町村での勤務経験があり、この実務経験をもとに講義・演習を行います</p>
授業形態	演習
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生看護管理（情報管理・事例管理・組織運営管理・業務管理・予算管理・人事管理）の方法について理解する。 2. 感染症の発生予防及び発生予防教育、発生時の対応、関係機関との連携、またその管理体制・評価について理解する 3. 虐待/DVの発生予防及び発生予防教育、発生時の対応、関係機関との連携、またその管理体制・評価について理解する 4. 自殺の発生予防及び発生予防教育、発生時の対応、関係機関との連携、またその管理体制・評価について理解する 5. 災害等の発生予防及び発生予防教育、発生時の対応、関係機関との連携、またその管理体制・評価について理解する
評価方法	授業への参加度（50%）レポート（50%）
教科書	保健学講座2 公衆衛生看護支援技術 メヂカルフレンド社 2022
参考書・参考文献	
履修条件	
科目等履修	
履修上の留意点	
備考・メッセージ	

講義科目名称： 実践疫学

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	必修
担当教員			
◎中尾裕之			
添付ファイル			

授業の目的・概要	自治体保健師の実践に必要な疫学的思考と疫学手法について学ぶ。疫学研究方法，曝露効果，年齢調整の方法などについて，授業と演習を行う。		
授業計画	1-7回	疫学研究方法 記述疫学 横断研究 コホート研究 症例対照研究 介入研究 それぞれの研究方法の利点と欠点	
	8-9回	曝露効果の指標 相対危険 寄与危険 寄与危険割合 人口寄与危険（割合）	
	10-11回	年齢調整 標準化とは 直接法と年齢調整死亡率 間接法とSMR	
	12-15回	GISによる分析 GISとは MANDARAを用いたGIS分析演習	
授業形態	講義と演習		
到達目標	①基本的な疫学的思考について理解し，実践に応用できる。 ②基本的な疫学手法について理解し，実践に応用できる。		
評価方法	講義への参加状況（50%），講義内外での学習成果物（50%） ※評価規準・基準は最初の授業で配布		
教科書	講義で配布する資料と必要時に適宜，紹介する。		
参考書・参考文献	中村好一：『基礎から学ぶ楽しい疫学』医学書院		
履修条件			
科目等履修	可		
履修上の留意点			
備考・メッセージ			

講義科目名称： 実践保健統計学

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	必修
担当教員			
◎中尾裕之			
添付ファイル			

授業の目的・概要	自治体保健師の実践に必要な統計的思考と統計手法について学ぶ。データの分布，様々な検定手法，必要なサンプルサイズの見積もりなどについて，講義と演習を行う。
授業計画	<p>1-4回 データの分布と統計手法 正規分布 歪んだ分布 さまざまな統計手法</p> <p>5-9回 統計学的推論 推定 検定 t検定 カイ2乗検定</p> <p>10-13回 相関と回帰 相関係数 回帰分析</p> <p>14-15回 検出力とサンプルサイズ 検出力とは サンプルサイズの見積もり G*POWERを用いたサンプルサイズの見積もり演習</p>
授業形態	講義と演習
到達目標	①基本的な統計的思考について理解し，実践に応用できる。 ②基本的な統計手法について理解し，実践に応用できる。
評価方法	講義への参加状況（50%），講義内外での学習成果物（50%） ※評価規準・基準は最初の授業で配布
教科書	講義で配布する資料と必要時に適宜，紹介する。
参考書・参考文献	中村好一：『基礎から学ぶ楽しい保健統計』医学書院 市原清志ほか：『カラーイメージで学ぶ〈新版〉統計学の基礎』日本教育研究センター
履修条件	
科目等履修	可
履修上の留意点	
備考・メッセージ	

講義科目名称： 保健医療福祉行政論

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	必修
担当教員			
◎佐藤信人			
添付ファイル			

授業の目的・概要	憲法第25条を具現化した社会保障及び公衆衛生の理念と背景を理解した上で、保健医療福祉に係る行財の仕組み及び制度の基本をおさえながら、関連制度の形成プロセスと保健師の関わりについて学ぶ。
授業計画	1－2回 保健医療福祉の行政・制度と保健師の活動 3－4 保健医療福祉の行政・財政の理念と仕組み 5－6 保健医療福祉行政の基本 7－8 社会福祉・公的扶助・介護保険の制度 9-10 公衆衛生の制度 11-12 医療の制度 13-14 保健医療福祉分野における制度・政策と動向、政策形成プロセス 15 まとめ
授業形態	受講者と協議
到達目標	1. 実施されている施策の評価を通じて、あるべき施策の方向性について意見を持ち説明することができる。 2. 施策形成プロセスについて検討し望まれる保健師の関わりについて意見を持ち説明することができる。
評価方法	参加度とレポートにより総合的に評価
教科書	保健学講座第5巻 保健医療福祉行政論 2022、1月版 メヂカルフレンド社
参考書・参考文献	必要に応じて紹介
履修条件	
科目等履修	可
履修上の留意点	
備考・メッセージ	原則として、一方的な講義ではなく受講者と共に創り上げる授業としたい。

講義科目名称： 社会保障制度論

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	必修
担当教員			
◎佐藤信人			
添付ファイル			

授業の目的・概要	<p>社会保障制度の中でも地域保健分野においては、社会福祉法・介護保険法の同時改正、地域包括ケアシステムの深化、地域共生社会の構築が政策課題となっている。このことは保健師の活動領域を拡大させる可能性をもつ政策転換であり果たすべき役割は重大となっている。このような中で、例えば高齢者領域では高齢者福祉計画・介護保険計画・地域福祉計画の策定やローリングへの保健師の関与、ケアマネジメントへの保健師の関与などを切り口にして地域でリーダーシップをとることができる実践力を獲得する。</p>
授業計画	<p>1回 イントロダクション</p> <p>2-3回 わが国の人口構造の変化と社会保障</p> <p>4-5回 地域共生社会の構築</p> <p>6-7回 計画行政と地域づくり</p> <p>8-9回 保健師の活動領域</p> <p>10-12回 地域づくりの構造と保健師活動</p> <p>13-14回 保健師がリーダーシップをとる政策形成</p> <p>15回 まとめ</p>
授業形態	受講者と協議
到達目標	<p>1. 自地域の行政計画（高齢・障害・児童・その他）を評価し意見を持ち説明できる。</p> <p>2. 自地域の社会保障施策を評価し意見を持ち説明できる。</p> <p>3. 保健師が関与・参画することを阻害する要因、その打開策について意見を持ち説明できる。</p>
評価方法	参加度とレポートにより総合的に評価
教科書	適宜、教員が準備して配布する。
参考書・参考文献	必要に応じて紹介
履修条件	
科目等履修	可
履修上の留意点	
備考・メッセージ	原則として、一方的な講義ではなく受講者と共に創り上げる授業としたい。

講義科目名称： 基礎実習 I (市町村実習)

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	3	必修
担当教員			
◎高橋秀治 松本憲子 河野朋美			
保健師養成分野	実践公衆衛生看護学専門科目 I	2セメスター	90時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	<p>1. 個人・家族等を対象とした支援を経験し、個別事例への継続支援を通して支援の計画の作成、実施、評価の過程を体験する。また、個別支援から集団対応、地域づくりへと発展させる保健師の活動展開方法や身近な保健福祉サービスを提供する市町村の役割を理解する。</p> <p>2. 学内での地区診断の演習を基として、新たに実態調査等を行い、地域住民や関係者と多角的にアセスメントすることを具体的に理解する。</p> <p>3. 地域診断から集団対応が必要な健康・生活課題を明らかにし、集団を対象とした活動の計画・実施・評価を体験する。</p>
授業計画	<p>実習施設：宮崎県内の2～3市町村役場・保健センター</p> <p>実習期間：10月-11月（15日間）</p> <p>実習内容：</p> <p>1. 市町村の保健活動や各種保健事業の把握、市町村の保健師活動</p> <p>①市町村で行われる保健事業に参加</p> <p>②家庭訪問（母子）：対象の把握、健康課題の抽出・検討、実践、振り返り、評価</p> <p>③健康相談：健康相談の見学、対象の把握、健康課題の抽出・検討、実践、振り返り、評価</p> <p>④健康教育：企画書・指導案の作成、デモンストレーション、媒体作成、実践、振り返り、評価</p> <p>⑤健康診査：問診・保健指導の見学、実践、振り返り、評価</p> <p>⑥学校での実習：市町村との連携の実際について見学、聞き取り</p> <p>2. 地区活動の展開</p> <p>①実習テーマに沿ったコミュニティの抽出</p> <p>②地域の情報収集（地区踏査、地域組織へのインタビュー、アンケートなど）</p> <p>③地域の情報分析</p> <p>④地区組織活動の把握</p> <p>⑤健康・生活課題の抽出・検討・焦点化</p> <p>⑥健康・生活課題の解決に向けた対策の提案</p> <p>⑦健康・生活課題の把握・計画・実施・評価の一連のプロセスについて評価</p> <p>※詳細は実習要項参照 ※担当教員は全員、保健所や市町村での勤務経験があり、この実務経験をもとに実習指導を行います</p>
授業形態	実習
到達目標	<p>1. 市町村における公衆衛生活動の概要が説明できる。</p> <p>2. 地域で生活する個人・家族の健康と生活のニーズを明らかにし、健康の保持増進に向けた家庭訪問や健康教育、健康相談が実践できる。</p> <p>3. 個人・家族・集団の健康課題解決のための基本的な支援技術の特徴が説明できる。</p> <p>4. 地域の人々の健康と生活の情報をアセスメント・分析し、健康・生活課題を明らかにすることができる。</p> <p>5. 地域住民・関係者を対象に、地域（特定の集団）の健康・生活課題の共有と課題解決にむけた活動のきっかけとすることを目的とした学習会等の場づくりを企画・実施・評価することができる。</p> <p>6. 地域住民・関係者の意見を踏まえた地域診断により、健康・生活課題を解決するための対策を提案することができる。</p> <p>7. 地区組織活動の意義と、組織化や活動継続のための保健師の役割を理解するとともに、集団・地域の健康・生活課題の抽出から計画、実施、評価までの一連のプロセスを評価し、地区組織活動の展開と地域ケアシステムとの関連について考察することができる。</p>
評価方法	実習履修状況や実習記録、訪問・健康教育等の実施内容などから総合的に評価する。
教科書	
参考書・参考文献	
履修条件	
科目等履修	
履修上の留意点	
備考・メッセージ	

講義科目名称： 基礎実習Ⅱ(保健所実習)

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2	必修
担当教員			
◎松本憲子 高橋秀治 河野朋美			
添付ファイル			

授業の目的・概要	公衆衛生看護活動が展開される主要な場の特性や特徴的な公衆衛生看護活動について学び、それぞれの場の一員として活動できる基礎的な能力を養う。保健所の組織構造、機能に関わる部署や組織とその機能、保健所で特徴的な保健師の役割を学ぶ
授業計画	<p>1 実習施設 宮崎県内の2～3の保健所 *原則として基礎実習Ⅰの市町村を管轄する保健所</p> <p>2 実習内容</p> <p>①保健所の既存資料から保健所の組織や働いている専門職とその役割について理解する。 (環境衛生・食品衛生・検疫・地域医療計画など)</p> <p>②既存資料から地域の特性を把握する。</p> <p>③保健活動または、事例検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精神疾患・精神障害による療養者 ・難病患者 ・感染症患者 ・障がい者(児) ・HIV検査・相談 ・不妊相談 <p>④市町村への連絡・会議等に参加</p> <p>※詳細は実習要項参照 ※担当教員は全員保健所や市町村での勤務経験があり、この実務経験をもとに実習指導を行います</p>
授業形態	実習
到達目標	<p>1. 保健所の組織体制と、それぞれの部署の活動目的、所属している職種の役割を説明できる。</p> <p>2. 広域的、専門的な保健所特有の活動を具体的に説明できる。</p> <p>3. 精神・感染症・難病に関する保健活動を理解し、実践することができる。</p> <p>4. 管轄市町村に対する保健所や保健所保健師の市町村支援の方法や活動内容を説明できる。</p>
評価方法	実習の状況、実習記録、保健活動への参加、家庭訪問等の状況から総合的に評価する。
教科書	
参考書・参考文献	
履修条件	
科目等履修	
履修上の留意点	
備考・メッセージ	

講義科目名称： 公衆衛生学特論

授業コード：

英文科目名称： Special Lecture on Public Health

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	必修
担当教員			
◎河野朋美			
保健師養成分野	実践公衆衛生看護学専門科目Ⅱ	1セメスター	30時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	社会・地域に「おける健康課題や対応する公衆衛生施策を学び、地域保健活動を展開する上で、基本となる公衆衛生学の理念や理論について理解を深める。衛生行政や環境保健等の活動の実際や事例から公衆衛生的に健康課題を捉え、解決するための能力を養う。
授業計画	<p>全15回（1～14回 特別講師による講義 + 15回 まとめ） 講義の順番は講師の都合により入れ替わる可能性があります。</p> <p>1回 公衆衛生総論① 坂元保健所長 5月14日（土）1限</p> <p>2回 高齢者福祉／母子保健 副島所長 5月14日（土）2限</p> <p>3回 精神保健 直野センター長 5月14日（土）3限</p> <p>4回 健康危機管理：災害 上谷保健所長 5月14日（土）4限</p> <p>5回 健康危機管理：感染症 西田保健所長 6月11日（土）1限</p> <p>6回 歯科衛生 森木主幹 6月11日（土）2限</p> <p>7回 成人保健／生活習慣病対策 鮫島所長 6月11日（土）3限</p> <p>8回 難病事業 工藤所長 6月11日（土）4限</p> <p>9回 感染症：HIV、結核、性感染症 茅野医師 7月9日（土）1限</p> <p>10回 公衆衛生総論② 日高元保健所長 7月9日（土）2限</p> <p>11回 労働衛生 岩本元保健所長 7月9日（土）3限</p> <p>12回 薬事行政 県薬務対策室長 7月9日（土）4限</p> <p>13回 食品衛生 県衛生管理課 下村補佐 7月14日（木）3限</p> <p>14回 環境衛生 県衛生管理課 下村補佐 7月14日（木）4限</p> <p>15回 まとめ 7月26日（火）3限 ※特別講師、担当教員は公衆衛生の実務経験を有する専門職です。</p>
授業形態	講義
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生学の理念や理論を理解できる 2. 衛生行政や衛生保健における公衆衛生活動が理解できる 3. 公衆衛生的な地域の健康課題について考えることができる
評価方法	レポート100%
教科書	その他適宜資料を配布
参考書・参考文献	公衆衛生がみえる メディックメディア 国民衛生の動向
履修条件	
科目等履修	
履修上の留意点	
備考・メッセージ	

講義科目名称： 公衆衛生看護学ゼミナール I

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	1	必修
担当教員			
◎平野かよ子 松本憲子 高橋秀治 河野朋美			
添付ファイル			

授業の目的・概要	自ら行った実践を省察し、多職種と支援した事例や複雑困難事例の検討等を通して、実践的思考力、多面的分析力を修得し、保健・医療・福祉の中での公衆衛生看護の位置づけと保健師の役割・昨日の理解を深める。
授業計画	<p>1～4回 オリエンテーション 自らが関わった事例・活動を振り返り、かかわりの概要のプレゼンテーションを行う。</p> <p>5～8回 文献講読 諸外国の地域保健を担う看護職の活動を学ぶ</p> <p>9～10回 研究クリティーク 自己の研究の問いを基に文献検索を行う。 抽出した研究論文のクリティークを行い研究成果や課題を考察し発表する。</p> <p>11～12回 事例検討 複雑困難な事例の事例検討を行う：「無銘の語り」から</p> <p>13回 我が国の保健師の専門性・独自性を考える。 公衆衛生看護学の歴史から実践研究を考える。（特別講師）</p> <p>14回 実践研究への理解を深める 実践研究について（特別講師）</p> <p>15回 まとめ 各自の保健師像を共有する。</p> <p>※担当教員は全員保健所や市町村での勤務経験があり、この実務経験をもとに講義を行います</p>
授業形態	演習
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自らが関わった事例・活動を整理し、実践をプレゼンテーションし、意見交換ができる。 2. 文献より諸外国における看護職による地域保健活動を理解する。 3. 多職種と連携して支援した事例や複雑困難事例を分析し、ディスカッションにより、保健師の専門性等を言語化できる。
評価方法	授業への参加態度（50%）レポート（50%）
教科書	
参考書・参考文献	
履修条件	
科目等履修	
履修上の留意点	
備考・メッセージ	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	1	必修
担当教員			
◎松本憲子 平野かよ子 高橋秀治 河野朋美			
添付ファイル			

授業の目的・概要	公衆衛生看護管理・健康危機管理実習を基として、行財政、行政組織運営、医療経済、地域経済についての知識を活用・統合させ、公衆衛生看護としての施策化、地域資源開発等についての理解を深める。また、公衆衛生看護の実践を形式知化する実践知の創出方法を考える。
授業計画	<p>令和4年度開講せず</p> <p>1－4回 オリエンテーション（松本） 学びの統合（平野） 既習の講義・演習、実習を踏まえ、公衆衛生看護の管理的機能である「地域ケアシステム論」「地域資源開発」「施策化」を関連させて考える。</p> <p>5－8回 公衆衛生看護の管理的機能（平野） 活動事例から公衆衛生看護の「組織を動かす」「地域を動かす」活動について整理し、プレゼンテーションを行い、公衆栄冠後の管理的（マネジメント機能）について討議する。</p> <p>9－12回 実践の形式地化を図る（平野） 自らが関わった事例を構造化し、暗黙知の形式知化を図る。</p> <p>13－15回 学びのまとめ（松本） 公衆衛生看護の実践及び文献等から、保健師の態度、理念、住民増、保健師像、地域贈答を整理する。</p> <p>※担当教員は全員保健所や市町村での勤務経験があり、この実務経験をもとに講義を行います</p>
授業形態	演習
到達目標	<p>1. 管理的な実践経験の豊かな保健師の参加を得て、公衆衛生看護における地域資源の開発、政策化の活動方法を理解する。</p> <p>2. 公衆衛生看護におけるマネジメントの理解を深め、公衆衛生看護の支援機能とマネジメント機能を統合する活動方法を理解する。</p>
評価方法	授業への参加態度（50%）、レポート（50%）
教科書	
参考書・参考文献	
履修条件	
科目等履修	
履修上の留意点	
備考・メッセージ	

講義科目名称： 基礎実習Ⅲ(継続支援実習)

授業コード：

英文科目名称： Basic Public Health Nursing Practicum Ⅲ
(Continued Support Practicum)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	1	必修
担当教員			
◎河野朋美 松本憲子 高橋秀治			
保健師養成分野	実践公衆衛生看護学専門科目Ⅱ	2 Semester	45時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	地域において複雑・困難な健康・生活問題を持つ事例もしくは地域住民集団やグループへの支援を通して、チームケアや地域の関係機関とのネットワーク形成、地域ケアシステム等の一連の活動の展開方法を学ぶ。また、市町村あるいは保健所の機能・役割と保健師活動を理解し、地域の健康課題に向けた支援に必要な能力を養う。
授業計画	<p>実習施設：原則、基礎実習Ⅰ・Ⅱを実施した市町村及び保健所</p> <p>実習期間：令和4年10月～令和5年3月の間の5日間</p> <p>学生配置：実習場所1か所あたりの学生は2名程度</p> <p>学習指導：市町村または保健所保健師1名～複数名の実習指導者と担当教員</p> <p>※詳細は実習要項参照</p> <p>※担当教員は全員保健所や市町村での勤務経験があり、この実務経験をもとに実習指導を行います</p>
授業形態	実習
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 複雑・困難な健康・生活問題を持つ事例もしくは地域住民集団やグループをアセスメントし、個人・家族／集団への支援方法を理解、実践、評価することができる 2. 事例が抱える問題解決のために他職種との連携・協働で行われる支援を通じて地域のネットワーク形成や地域ケアシステムの一連の展開方法を理解することができる 3. 保健医療福祉計画との関連性について理解することができる 4. 個別的な支援・集団（教室、小集団活動等）支援や、地域全体への活動を連動させながら保健活動への展開過程を理解し、これら活動の一端を実践することができる 5. 身近な対人保健福祉サービスを提供する市町村保健師の役割を理解できる 6. ニーズに応じて保健・医療・福祉及び地域のソーシャルキャピタルを活用した保健活動の展開における保健師の役割について説明することができる
評価方法	実習履修状況、記録、レポート、発表などから総合的に評価
教科書	適宜資料を配布
参考書・参考文献	
履修条件	
科目等履修	
履修上の留意点	
備考・メッセージ	

講義科目名称： 発展実習 I (職域保健実習)

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	1	必修
担当教員			
◎高橋秀治 松本憲子 河野朋美			
保健師養成分野	実践公衆衛生看護学専門科目Ⅱ	2 Semester	45時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	労働者の健康課題の総合的な解決に向けて活動する産業保健師の役割、機能を学ぶ。また、これらの活動と地域における保健活動との関連を理解する。
授業計画	<p>実習施設：宮崎県内事業所（2か所程度）</p> <p>実習期間：11月（5日間）</p> <p>実習内容：①事業場の概要 ②労働の特性と健康課題 ③事業場の労働環境衛生管理 ④産業看護活動の見学 ⑤保健指導の実際 ⑥産業保健のまとめ</p> <p>※詳細は実習要項参照 ※担当教員は全員、保健所や市町村での勤務経験があり、この実務経験をもとに実習指導を行います</p>
授業形態	実習
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 労働者の健康状態を把握し、それを踏まえた支援方法を説明することができる 2. 事業場における健康管理の実際を知り、産業保健師の役割を考察することができる 3. 事業場で行われる職域保健と地域保健の連携を把握することができる
評価方法	履修状況やカンファレンスの参加状況、レポート等から総合的に評価する。
教科書	
参考書・参考文献	
履修条件	
科目等履修	
履修上の留意点	
備考・メッセージ	

講義科目名称： 発展実習Ⅱ（公衆衛生看護管理・健康危機管理実 授業コード：
習）

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2	必修
担当教員			
◎松本憲子 高橋秀治 河野朋美			
添付ファイル			

授業の目的・概要	地域で生活するすべての人々が安全で安心して健康的に暮らしていくことを支援する公衆衛生看護における看護管理や地域の健康危機管理の理解を深める。
授業計画	<p>令和4年度開講せず</p> <p>1 実習施設 宮崎県内の2～3の保健所</p> <p>2 実習内容 県全体の会議に参加 保健所における公衆衛生看護管理活動の実態把握 関係機関訪問 保健所及び市町村における危機管理の説明を受ける 県保健師の役割について説明を受ける 諸会議に参加し、会議の準備、実施、事後対応における保健師の管理機能を理解する 公衆衛生看護管理と健康危機管理の体制と保健師の役割についてのカンファレンス 統括保健師の活動を知る</p> <p>※詳細は実習要項参照</p> <p>※担当教員は全員保健所や市町村での勤務経験があり、この実務経験をもとに実習指導を行います</p>
授業形態	実習
到達目標	<p>1. 地域住民の健康増進および生活を守るための保健活動の質を保証する機能と役割の実際について学ぶ。</p> <p>2. 実習施設の各種保健医療福祉計画に基づく施策化、保健サービス等を提供するための保健師の役割、関係機関との連携・協働の実際を学びマネジメントを実践できる能力を習得する。</p> <p>3. 個人・家族、地区、保健師の所属する組織の健康状態に危機的状況がおこる場面に応じた公衆衛生看護活動が実践できるための専門知識を学ぶ。</p> <p>4. 公衆衛生看護管理や健康危機管理の実際を理解し必要な知識・態度を習得し、公衆衛生看護管理・健康危機管理体制の課題を探究する。</p>
評価方法	実習履修状況、記録、レポート、発表などから総合的に評価
教科書	
参考書・参考文献	
履修条件	
科目等履修	
履修上の留意点	
備考・メッセージ	

講義科目名称： 実践研究

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1～2年	8	必修
担当教員			
◎平野かよ子 ◎松本憲子			
添付ファイル			

授業の目的・概要	公衆衛生看護の活動や研究論文等の文献クリティークを行い、看護学研究方法論や社会調査法演習、基礎実習等の学習を基として実践の中から研究テーマを設定し、実践者と協働し実践課題の解決に還元可能な実践研究論文を作成する。
授業計画	1-30回 研究計画の立案 研究計画の立案 文献検討，データ収集方法の検討，関係機関との調整，倫理審査 31回-60回 データ収集 文献検索・整理，インタビュー実施・入力，調査票配布・回収・入力 62回-90回 データ分析・結果の考察 解析，テーブルの作成，結果の解釈，文献再検討，考察 91回-120回 論文作成 考察，方法，結果，イントロ，参考文献，要旨の作成
授業形態	講義・演習・フィールドワーク
到達目標	1. 自身の関心や疑問を基に、現場でのインタビューや参与観察、活動報告や研究論文を通して情報を集め、研究で取り上げるテーマ（地域の健康課題や事例が提起する課題）を明確にできる。 2. テーマに関連する法制度の変遷や現在の社会状況を把握し、テーマに内包される健康課題との関連性を分析し構造化できる。 3. 明らかにした研究テーマについて研究計画書を作成し、実施のための環境調整ができる。 （倫理審査を受ける必要がある場合は、倫理審査書類を作成し、倫理審査を受ける） 4. 計画書にそって研究を実施し、修士論文を作成する。 5. 地域住民、関係機関、学会などに研究の成果を還元できる。
評価方法	博士前期課程 実践研究 論文審査
教科書	
参考書・参考文献	
履修条件	
科目等履修	
履修上の留意点	
備考・メッセージ	

講義科目名称： 看護理論

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	必修
担当教員			
◎山岸仁美 毛利聖子			
添付ファイル			

授業の目的・概要	看護実践を導く看護理論について、ナイチンゲール看護論を中心に、主要な看護理論について理解を深め、看護実践における看護理論の意義について、討議を通して明確にする。
授業計画	<p>1回 オリエンテーション</p> <p>2-6 ナイチンゲール看護論について ナイチンゲールがなぜ看護理論の創始者といえるのか ナイチンゲール看護論における目的論・対象論・方法論について ナイチンゲール看護論の実践への適用について、具体的な看護過程より理解を深める 各自、ナイチンゲール看護論を活用して、自己の看護実践を分析を試みる</p> <p>7-14 選択した看護理論について、プレゼンテーションおよび討議 看護理論の開発のプロセス・特徴・実践への有効性について、事例への適用を試みながら検討した内容をプレゼンテーションする 討議を通して、看護理論の理解を深める</p> <p>15 看護理論の発展の方向性について討議</p>
授業形態	講義・プレゼンテーション・討議
到達目標	<p>1 看護理論の意義について理解する</p> <p>2 看護理論の開発のプロセス・特徴・実践への有効性について、看護実践とのつながりで理解を深める</p>
評価方法	<p>毎回の討議内容およびレポート 50%</p> <p>プレゼンテーションの内容 20%</p> <p>最終レポート 30%</p>
教科書	看護理論家の業績と理論評価 第2版 編集 筒井真優美 医学書院
参考書・参考文献	<p>原文看護覚え書 F. ナイチンゲール 現代社</p> <p>看護覚え書 改訳第7版 訳 湯楨ます 他 現代社</p>
履修条件	
科目等履修	
履修上の留意点	
備考・メッセージ	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2	必修
担当教員			
◎久野暢子、田中美智子、中尾裕之、山岸仁美、他			
		2 Semester	30時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	看護学における研究の意義を理解し、研究デザインの種類や特徴、研究のプロセス、研究倫理などを学ぶことで、看護学の発展に寄与しうる研究において必要な知識を修得する。また、研究論文のクリティークを通して研究の実際を学び、研究遂行における基礎的能力を養う。
授業計画	<p>1回 【ガイダンス／研究の基本的知識】（久野）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本科目の概要、授業スケジュール、評価方法 ・研究疑問と研究デザインの関係 など <p>2回 【論文執筆のルール】（久野）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指定テキスト第4-6章のプレゼンテーション ・各章の内容を実際の研究論文に照らして説明する。 <p>3回 【研究デザイン：調査研究】（中尾）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査研究の概要 ・調査票の設計時の注意点 <p>4回 【研究デザイン：質的記述的研究】（久野）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質的研究デザインを用いた研究論文のプレゼンテーション など <p>5-8回 【調査の実際：グループワーク】（中尾／久野）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受講生の希望に沿って、調査研究／質的記述的研究のどちらかのグループワークを行う。 <p>9-10回 【研究デザイン：学的方法論】（山岸）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護学研究における学的方法論の位置づけ ・学的方法論を用いた研究をもとに討議する <p>11-12回 【研究デザイン：実験研究】（田中）</p> <p>11回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実験研究デザイン（介入研究）についての講義 ・CONSORTに基づいた方法・結果について ＜課題：実験研究デザインの研究を1つ調べて読み込む＞ <p>12回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調べた課題についての発表（各自発表） <p>13-14回 【研究計画のプレゼンテーション】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究計画発表会への参加 <p>15回 【文献クリティーク】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己の研究疑問に関連する文献を選択し、本科目での学修内容を活かして研究方法を中心としたクリティークを行い、その内容をレポートにまとめる。（個人ワーク） <p>※講師の都合により授業の順番が変更する可能性があります。</p>
授業形態	講義
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護学研究の意義が理解できる。 2. 代表的な研究デザインの特徴が理解できる。 3. 自己の研究疑問に関する文献クリティークができる。
評価方法	授業への参加状況（プレゼンテーションやグループ討議を含む）（80%）および文献クリティークレポート（20%）より総合的に評価する。
教科書	前田樹海, 江藤裕之. APAに学ぶ看護系論文執筆のルール. 医学書院 その他、資料については随時配布する
参考書・参考文献	D. F. ポーリット&C. T. ベック. 看護研究 原理と方法 第2版. 医学書院
履修条件	—
科目等履修	可
履修上の留意点	

講義科目名称： 看護倫理

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2	必修
担当教員			
◎島内千恵子、毛利聖子、佐藤 信人、邊木園幸、重久加代子、久野暢子、野間口千香穂、岩江他			
		2 Semester	30時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	看護倫理の基本について歴史的に理解し、実践現場で活用できる倫理的判断能力と問題解決技法および研究倫理について学ぶ
授業計画	1-2回 看護倫理の基本（特別講師） 3-4回 看護倫理の歴史（毛利） 5-6回 対人援助の倫理（佐藤） 7-8回 遺伝医療における倫理的課題（野間口） 9回 老年期・終末期における倫理的課題（重久） 10回 HIV感染者をめぐる倫理的課題（久野） 11-12回 新型コロナ感染症をめぐる倫理的課題（邊木園） 13回 薬剤耐性菌をめぐる倫理的問題（島内） 14-15回 研究倫理（岩江）
授業形態	講義
到達目標	1. 看護倫理の基本について、歴史的に理解することができる。 2. 倫理的課題とその解決技法について、理解することができる。 3. 研究倫理について、理解することができる。
評価方法	提出課題（事前学習）レポート 40% 授業への参加状況（討論・発表）60%
教科書	随時、紹介する。
参考書・参考文献	随時、紹介する。
履修条件	—
科目等履修	否
履修上の留意点	
備考・メッセージ	授業の順番・実施日は変更することがあります。

講義科目名称： 生活習慣病予防論

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	1	選択（研究コース）・必修（実践者養成コース）
担当教員			
◎高橋秀治 串間敦郎 菅野幸子			
共通科目		1 Semester	15時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	ライフサイクルにおける生活習慣病の特徴を理解すると共に、基本的な生活習慣病の病態・治療方法と、生活習慣病予防を目指した主な生活習慣改善方法である食・運動に関する保健指導のポイントを学習する。
授業計画	<p>第1回 生活習慣病の特徴（高橋） 生活習慣病の特徴、生活習慣病予防保健指導</p> <p>第2-3回 生活習慣病の病態と治療方法（特別講師） 健診結果の見方、詳細な検査、二次検査と治療 高血圧症、糖尿病、脂質異常症の病態と薬物治療 CKDの病態と治療、心房細動と心原性脳梗塞、心電図所見</p> <p>第4-5回 生活習慣病予防のための栄養・食生活指導（菅野） 栄養アセスメントの活用 検査値からわかる身体の状態 行動変容を目指した栄養指導の実際 糖尿病、脂質異常症、高血圧、CKD</p> <p>第6-7回 生活習慣病予防のための運動（串間） 健康づくりのための身体活動基準・指針 治療者への運動指導 運動処方（運動種目・運動強度の設定） ウォーキング、レジスタンストレーニングの指導ポイント</p>
授業形態	講義
到達目標	個人・家族・集団の生活習慣改善に向けた行動変容に必要な諸理論について理解できる 生活習慣病及び予防方法の特徴が理解できる 生活習慣病の発症・重症化の保健指導が理解できる
評価方法	授業への参加状況（50%）、レポート（50%）による総合評価
教科書	田中逸：新セミナー生活習慣病〈第2版〉、日本医事新報社、2018
参考書・参考文献	高血圧診療ガイド2020：日本高血圧学会、文光堂 糖尿病治療ガイド2020-2021、日本糖尿病学会、文光堂 動脈硬化性疾患予防のための脂質異常症診療ガイド 2018年版：日本動脈硬化学会、 エビデンスに基づくCKD診療ガイドライン2018：日本腎臓学会 どこでもケア（保健指導用タブレット教材）、ウェルクル
履修条件	
科目等履修	
履修上の留意点	
備考・メッセージ	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	1	選択（研究コース）・必修（実践者養成コース）
担当教員			
◎中村千穂子			
添付ファイル			

授業の目的・概要	世界のすべての人々が健康な生活を享受する社会の実現をめざしたグローバルヘルスの課題とそれに対する世界的な戦略及び日本の取組について学ぶ。また、国際看護活動について医療モデルと公衆衛生モデルによるアプローチから捉え、自己の実践分野における健康課題解決に向けた取組について計画立案する。
授業計画	<p>1回 【オリエンテーション】</p> <p>2回 【グローバルヘルス】① 【グローバルヘルスについて】 グローバルヘルスとは、グローバルイシューとは 【グローバルヘルスイシューの現状】 世界の10大主要死因、所得国別10大主要死因、世界疾病負荷、健康の社会的決定要因・健康格差 【グローバルヘルスに対する世界的な戦略（国連）および日本の取り組み】</p> <p>3回 【ヘルスシステムとは何か、公衆衛生モデルと医療モデルとは何か】 【グローバルヘルス】② 【グローバルヘルスイシューの現状】 環境保健・感染症（世界三大感染症、顧みられない熱帯病、新興・再興感染症） 【リプロダクティブヘルスとライツおよび小児保健領域における課題、紛争および災害における健康危機】</p> <p>4回 【国際看護学概論】 【国際看護学概論】 国際看護を学ぶ意味、国際看護と異文化看護、国際看護の定義、国際看護活動とは</p> <p>5回 【海外における国際看護活動】 【在留外国人に関する保健医療】 【在留外国人に関連する法律・施策】 【グローバルヘルスイシューの現状】 日本における健康格差、在留外国人の健康課題、訪日・在留外国人に対する保健医療サービスの課題（公衆衛生領域・医療サービス領域）</p> <p>6回 【宮崎県における国際看護の実践】</p> <p>7回 【課題発表】 課題：日本における在留・訪日外国人(●●国の外国人)の健康課題・保健医療サービスの課題に対する取り組み(自己の研究領域の中でテーマ設定)</p> <p>8回 (0.5) 【まとめ】</p>
授業形態	講義、アクティブラーニング(Think-Pair-Share, マイクロ・ディベート, プロジェクト策定・プレゼンテーション)
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. グローバルヘルスの現状と課題について理解する。 2. グローバルヘルスに対する戦略について理解する。 3. 国際看護の概要について理解し、海外および日本における課題や活動について理解する 4. 自己の実践分野での健康課題を見出し、解決に向けたプロジェクトを計画できる。
評価方法	授業への参加度・プレゼンテーション（70%）、レポート（30%）
教科書	
参考書・参考文献	Anne-Emanuelle Birn, Yogan Pillay, and Timothy H. Holt(2017).Textbook of Global health, 4th ed. Oxford University Press. WHO(2021).World Health Statistics 2021, WHOウェブサイト https://www.who.int/
履修条件	
科目等履修	可

履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none">・ グーグルクラスルームを開設するので、グーグルアカウントを取得しクラスルームに入ること・ 授業中に積極的に発言する。
備考・メッセージ	世界の人々には国籍・人種・民族・宗教などの違いはありますが、人としての普遍的な欲求は同じであり、健康課題や健康格差は存在します。これらの課題に対して、看護で何ができるか、ともに考えていきましょう。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	1	選択（研究コース）・必修（実践者養成コース）
担当教員			
◎梅津顕一郎（科目担当調整教員 松本憲子）			
添付ファイル			

授業の目的・概要	<p>社会調査は、単に社会科学の学問的なデータを集める手法にとどまるものではなく、様々な社会的実践活動の基礎をなす、問題発見と論理的な思考に深く貢献するものである。授業では、社会調査プロジェクト(フィールドワーク)の実践を通じ、社会現象を科学的に理解し、議論するためのスキルを身につける。具体的には、全体課題として指定した大きなテーマに基づき、受講生自らが問いを立て、仮説をつくり、仮説を検証するための対象と方法を選択し、実践するプロセスを経験することで、問題の設定やそれに相応しい論理的思考力を身につける。</p> <p>特にフィールドワークでは、実際に地域社会に出て調査を行うことで、地域というフィールドと論理的な思考とを往復しながら考察を深めることを目指していく。</p>
授業計画	<p>第1回 【ガイダンス】 社会調査法演習について</p> <ul style="list-style-type: none"> 以下の項目についてガイダンスを行い、授業への理解を深める。①授業の狙いと方法、②授業の全体計画 課題: 次回レクチャー用配布資料に目を通し、疑問点等を明らかにしてくる <p>第2回 【レクチャー】 社会調査とは何か</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会調査の基本的な考え方や、各研究手法の特徴と意義について理解する。 課題: この回後半に提示する調査の全体テーマに基づき、各自調査テーマ案を考え、企画書を作成(様式・分量は授業内で指定) <p>第3回 【グループワーク】 課題の決定とチーム分け</p> <ul style="list-style-type: none"> 各自の企画案を出し合い、チーム分けを行う 課題: グループごとの企画書の指定部分を完成させる <p>第4回 【レクチャーとグループワーク】 仮説設定</p> <ul style="list-style-type: none"> 調査テーマに基づいた関連情報のリサーチと仮説の設定の方法について理解し、各グループの作業を進める。 調査を計画的に進めるために必要な、対象者への依頼と実施についての作法と手法について理解する。 課題: 作業の残り部分 <p>第5回 【レクチャーとグループワーク】 インタビュー調査の意義と手法</p> <ul style="list-style-type: none"> インタビュー調査の意義と手法について理解し、グループワークとして簡単なインタビューを行う。 課題: 授業内容を踏まえ、各グループにおける関連情報のリサーチ追加等を行う <p>第6回 【レクチャーとグループワーク】 アンケート調査の意義と手法</p> <ul style="list-style-type: none"> アンケートの意義と限界、仮説検証に対する役割等について理解を深め、各グループの仮説検証に必要なアンケートの設計を行う。 課題: 作業の残り部分。グループによっては仮説自体のブラッシュアップのためのプレアンケートを行ってもよい。 <p>第7回 【レクチャー】 記録法</p> <ul style="list-style-type: none"> 記録法、コーディング、エディティングなどについての理解を深める。 課題: 第2～7回の授業内容を踏まえ、本調査の設計を行う。 <p>第8回 【レクチャーとグループワーク】 本調査の設計と段取り</p> <ul style="list-style-type: none"> 質問方法と項目についての確認と確定を行う。 課題: 作業の残り部分 <p>第9回 【グループワーク】 調査の実習①</p> <ul style="list-style-type: none"> 各グループごとの調査の実習 <p>第10回 【グループワーク】 調査の実習②</p> <ul style="list-style-type: none"> 調査結果の整理と記録、コーディング、エディティングなど 課題: 中間報告会に向けた準備 <p>第11回 【中間報告会】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各報告と、課題・問題点の指摘(ディスカッション) <p>第12回 【グループワーク】 分析と仮説検証・考察①</p> <ul style="list-style-type: none"> 中間報告時に指摘された問題、課題を受け、内容をブラッシュアップする クロス集計等から、考察を深める。 <p>第13回 【グループワーク】 分析と仮説検証・考察②</p> <ul style="list-style-type: none"> 中間報告時に指摘された問題、課題を受け、内容をブラッシュアップする クロス集計等から、考察を深める。 <p>第14回 【グループワーク】 調査報告書の作成と報告会の準備</p> <ul style="list-style-type: none"> 所定様式による報告書の執筆とともに、最終報告会におけるプレゼンテーションの準備を行う。 <p>第15回 15回【報告会】 最終報告会、および報告書の提出</p>
授業形態	講義および演習

到達目標	<p>① 諸現象における問題状況、課題について、自らの力で発見し、社会・文化関係を総合的な視野から思考し、その解決に向けて、俯瞰的かつ総合的な視野から思考することができる。</p> <p>② 社会調査の基本的事項を踏まえながら、社会調査としての確かなプロジェクトを設計することができる。</p> <p>③ 調査設計と実施方法に関して理解した上で、社会調査によって資料やデータを収集・分析することができる。</p> <p>④ 調査の企画から報告書の作成までにまたがる社会調査の全過程について自ら実践することができる。</p>
評価方法	試験（60%:中間報告10%、最終報告20%、報告書30%）、授業への参加状況（40%）
教科書	特定のものは使用せず、毎回事前に資料を配布する。
参考書・参考文献	第1回講義及び第8回までの授業内でテーマごとに紹介します。
履修条件	—
科目等履修	可（または不可）
履修上の留意点	授業の性格上、熱心な参加と真面目な態度が求められます。特に欠席遅刻は他のグループメンバーの迷惑となりますので厳禁でお願いします。
備考・メッセージ	<p>これからの社会が人々の健康と幸福に満ちたものとなるために、社会学的な思考は非常に重要であると考えています。授業では単に調査技法について学ぶだけでなく、社会学的な物事のとりえ方の面白さと意義も味わっていただきたいと考えています。</p> <p>厳しいだけでなく、なるべく楽しみながら深く学べる場としたいと考えておりますので、よろしくお願いたします。</p>

講義科目名称： 行政・組織論

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	1	選択（研究コース）・必修（実践者養成コース）
担当教員			
◎有馬晋作（科目調整担当教員 松本憲子）			
添付ファイル			

授業の目的・概要	将来、保健行政に携わることを想定し、国と自治体の関係も含め自治体行政の知識や理論を学ぶ。我が国の国政と地方自治の制度のほか、その歴史も学び、自治体の行政活動を規制行政など種類に応じた特色を理解するとともに、その政策について、福祉行政など県予算も通じて理解する。また、保健行政は今後、地域との連携協力が重要となることから、我が国のコミュニティ政策の歴史と現状を理解する。		
授業計画	1回目	我が国の統治制度の基本的考え方を理解する。 我が国の国政の制度を理解する。	
	2回目	我が国の地方自治制度を理解する。 我が国の国と自治体の行政組織と、その関係を理解する。	
	3回目	行政活動について、その種類ごとに、目的、特色を理解する。 福祉行政の歴史を含め生活保護や高齢者福祉などを理解する。	
	4回目	公衆衛生の歴史も含め保健所の行政を理解する。	
	5回目	県の予算を通じて行政活動を具体的に理解する。 県の予算を通じて自治体行政を総合的に理解する。	
	6回目	自治体組織の意思決定プロセスを理解する。 人的資源管理論と自治体人事を理解する。	
	7回目	日本の国政の歴史について、政策の変遷も含め理解する。 日本の地方自治の歴史について、政策の変遷も含め理解する。	
	8回目	日本のコミュニティ政策の歴史を理解する。 日本のコミュニティの現状を理解する。	
授業形態	講義形式ですが、間に質疑（質問・討論など）を入れて進める。		
到達目標	将来、保健行政やコミュニティ政策に携わるときに必要な知識と応用能力を習得する。		
評価方法	毎回の授業での態度やテストの総合評価		
教科書	毎回、レジュメを配布		
参考書・参考文献	授業で別途提示		
履修条件	特になし		
科目等履修	特になし		
履修上の留意点			
備考・メッセージ	行政を学ぶという固い感じがしますが、履修者が少人数なので、和気あいあいと進めたいです。		

講義科目名称： 疫学・保健統計学特論

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	選択（研究コース）・必修（実践者養成コース）
担当教員			
◎中尾裕之			
添付ファイル			

授業の目的・概要	看護研究と看護実践に必要と考えられる疫学的な考え方と基本的な統計的方法について学ぶ。		
授業計画	1-4回	疾病頻度の測定 曝露と疾病 疫学指標	
	5-7回	データと分布 変数の種類 統計量	
	8-11回	データの可視化 偏りと交絡 偶然誤差と系統誤差 バイアス	
	12-13回	交絡因子とその制御 スクリーニング 感度と特異度 スクリーニング	
	14-15回	テキストの量的な分析 計量テキスト分析とは KH-Coderを用いた分析演習	
授業形態	講義		
到達目標	①基本的な疫学手法について理解し、応用できる。 ②基本的な統計手法について理解し、結果について解釈できる。		
評価方法	講義への参加状況（50%）、講義内外での学習成果物（50%） ※評価規準・基準は最初の授業で配布		
教科書	講義で配布する資料と必要時に適宜、紹介する。		
参考書・参考文献	中村好一：『基礎から学ぶ楽しい疫学』医学書院 中村好一：『基礎から学ぶ楽しい保健統計』医学書院 樋口耕一：『社会調査のための計量テキスト分析』ナカニシヤ出版		
履修条件			
科目等履修	可		
履修上の留意点			
備考・メッセージ			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	選択
担当教員			
◎菅野幸子			
添付ファイル			

授業の目的・概要	「人間にとっての栄養とは」を講義する。栄養と生命活動及び人間生活にかかわる科学的な事実をもとに健康を支える栄養のあり方について考え、「何をどれだけどのように食べたらよいか」について学ぶ。食情報を受発信できる力を身につけ、地域社会や病院など、様々な環境の中で生きている人々への栄養をとおした支援に活用できる力を修得する。
授業計画	<p>1回 オリエンテーション、代謝学概論（代謝学を学ぶ目的を明確にしよう）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 栄養素の摂取と栄養素の体内利用（代謝）は生命現象の根元である 2. 栄養素の【摂取－自己化－排出】の過程を物質の変化でとらえる 生体を物質(分子)のレベルから、細胞、臓器、個体と階層性でとらえる 生体構成成分を、糖質・脂質・タンパク質・核酸に分類できるようになる <p>*体内で栄養素がどのように代謝され、機能しているかを理解し、その知識を栄養学、薬理学、疾患の理解に活用できる力をつけよう。</p> <p>2-6回 体内における栄養素（糖質、脂質、タンパク質）の代謝</p> <ol style="list-style-type: none"> 3. 栄養素の消化と吸収 実験：でんぷんの酵素加水分解反応 4. 栄養素の代謝、代謝の相互変換（細胞レベル） 糖質、脂質、タンパク質の構造を基盤に、代謝過程と相互変換を示す図を理解する。 図を活用しながら、食事・運動などの生活状況、疾患などに関連させて、代謝について理解する。 5. 臓器レベル、人体レベルでの栄養素の代謝 <p>7-8回 人間栄養学概論（人間栄養学を学ぶ目的を明確にしよう）</p> <ol style="list-style-type: none"> 6. 人間にとっての栄養とは 7. おいしいものを食べる vs おいしく食べる 8. どう食べるか 薬膳の考え方 <p>9-10回 調理実習</p> <ol style="list-style-type: none"> 9. 調理実習 <p>11-12回 健康のために「何をどれだけどのように食べたらよいか」</p> <ol style="list-style-type: none"> 10. 評価基準の活用 食事摂取基準、四群点数法、食生活指針と食事バランスガイド <p>13-15回 【実践栄養：栄養教育 栄養管理】</p> <ol style="list-style-type: none"> 11. 栄養アセスメント 12. 食行動の変容をめざした支援と方法について 13. チーム医療、NST、高齢者の栄養
授業形態	講義・演習
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 栄養と生命活動および人間生活にかかわる科学的な事実をもとにして、健康を支える栄養のあり方について考える。 2. 人体における栄養素の代謝について理解する。 3. 食物や調理、食行動等について理解を深め、自分の食生活に活かす体験を重ねる。 4. 「何をどれだけどのように食べたらよいか」の評価基準について、根拠や活用を学ぶ。 5. 食行動の変容をめざした支援と方法について学ぶ。 6. 栄養管理の実際とその意義を学ぶ。
評価方法	授業への参加状況(30%)、毎回の授業後の課題レポート(70%)
教科書	講義テキストを開講時に配布する。
参考書・参考文献	適宜紹介する。
履修条件	—
科目等履修	可
履修上の留意点	講義・演習の順番や、受講生の深めたい内容などによって変更することがあります。
備考・メッセージ	食べることはいのちのしくみである。その科学的根拠を基盤に、生涯を通じて幸せに健康に生きるための「人間にとっての栄養とは」「どう食べたらよいか」について、一緒に考えていきたいと思います。人はよく生きるようにつくられている、正常な身体のしくみはすごい！と見抜き、看護につながられる思考過程を身につけていきましょう。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2	選択
担当教員			
◎串間敦郎			
		2 Semester	30時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	健康の保持増進には、適度な運動が必要である。また疾病や障害によっては、回復から復帰にかけても必要となってくる。そこで本授業では医療と運動の関わりをふまえて、健康と運動の関係、身体機能と運動のかかわり等について教授する。そして、運動不足で起こる疾病や運動時に起こしやすい障害の予防法、運動処方を中心としたリハビリの方法等についても実践し修得していく。その際医療で使われている身体運動の測定に必要な機器を用いて、その評価の方法や運動指導法についても教授する。
授業計画	<p>1回 【オリエンテーション及び講義「健康体力医学と運動科学について」】 今後の授業の展開についての説明 授業を進めていく上で必要な体力医学的な知識について教授する。 新型コロナウイルス感染状況次第では、7回までの授業についてはオンライン等で実施することがある。</p> <p>2-7回 【健康と運動の関わりについて（理論編）】 関連する論文または書籍を輪読し、それについて検討を加え理解を深める。</p> <p>8-14回 【健康と運動の関わりについて（実践編）】 これまで学修してきたことをふまえ、体力医学の評価方法や運動の指導法について学習する。内容は以下に示す項目である。</p> <p>1 リハビリテーションに関する運動 ・ストレッチング ・転倒予防体操 ・エアロバイク ・ジムニックボール ・ウォーキング 等 またこれらの運動を実行する際に、姿勢評価、筋電図、最大酸素摂取量等の測定を行う</p> <p>2 患者やアスリートのケア ・テーピング ・マッサージ ・リハビリの実際</p> <p>3 運動指導法 ・トレーニングの方法（行動変容・コーチング理論の適用） ・運動技術の修正法</p> <p>4 宮崎市介護予防運動教室見学</p> <p>新型コロナウイルス感染状況次第では、14回までの授業についてはオンライン等で実施することがある。</p> <p>15回 【まとめ】 これまでの演習内容のまとめと作成した運動処方発表</p> <p>16回 【評価（レポート提出）】</p>
授業形態	講義及び演習（新型コロナウイルスの感染状況次第では、遠隔授業を実施する場合がある）
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 運動することが健康に必要でなぜ有効なのか理解する。 2. 運動の効果について、その根拠について理解する。 3. 自己や若年・成年・老年、アスリート、患者、障がい者等の多様な対象者の体力や身体の状態を客観的に評価し、運動処方を作成する。
評価方法	測定した各自のデータをもとに、健康増進・体力向上に関するレポートを提出 授業への参加状況(30%)、レポート(70%)
教科書	授業時に指示
参考書・参考文献	授業時に指示
履修条件	—
科目等履修	可
履修上の留意点	
備考・メッセージ	

講義科目名称： 看護管理学

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	選択
担当教員			
◎鶴田恵子、平野かよ子			
添付ファイル			

授業の目的・概要	看護管理学の諸理論及び看護管理過程について学修し、看護管理のあり方を探求する
授業計画	<p>1-3回 ガイダンス、看護サービス管理とは何か</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス ・看護サービス管理と何か ・看護サービス管理の基礎 ・看護サービス管理の要素とプロセス <p>4-6回 日本の医療と介護の提供システム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の医療と介護サービスの提供システム(1) ・日本の医療と介護サービスの提供システム(2) ・地域包括システムと看護管理 <p>7-9回 看護行政と看護政策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護行政のしくみと看護政策(1) ・看護行政のしくみと看護政策(2) ・看護行政のしくみと看護政策(3) <p>10-15回 看護サービス管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護サービスの質保証 ・看護サービス管理におけるリスクマネジメント ・看護と情報管理のシステム ・看護キャリア開発 ・看護倫理と看護サービス管理 ・看護サービス管理における教育と研究
授業形態	授業は、講義、プレゼンテーション、テーマを中心にディスカッションを重視する。
到達目標	<p>1. 看護管理の課題を解決するために、既存のシステムのみならず新たなシステムを構築し、マネジメントできる方策について説明することができる。</p> <p>2. 看護政策の現状と策定過程を説明することができる。</p>
評価方法	授業への積極的な取り組み（発言）40%、プレゼンテーションの内容と態度、課題レポート60%
教科書	「看護サービス管理」第5版 医学書院、2022
参考書・参考文献	
履修条件	
科目等履修	
履修上の留意点	
備考・メッセージ	

講義科目名称： 看護政策論特論

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	選択
担当教員			
◎平野かよ子			
添付ファイル			

授業の目的・概要	医療・看護及び保健・福祉に関する法制度の概要と政策形成過程を理解し、政策形成における看護職の役割を理解する。		
授業計画	<p>1回 オリエンテーション 我が国の看護施策</p> <p>2回 医療をめぐる社会情勢と看護・保健の重点課題</p> <p>3回 看護の法制度 保健師助産師看護師法</p> <p>4回 看護師等人材確保法</p> <p>5回 医療法、診療報酬制度</p> <p>6回 診療報酬改定、介護報酬改定</p> <p>7回 保健関連の法制度Ⅰ</p> <p>8回 保健関連の法制度Ⅱ</p> <p>9回 福祉関連の法制度</p> <p>10－11回 法制度の制定と改正 関心のある法制度の制定から改正の経緯の分析</p> <p>12回 看護政策の政策形成過程</p> <p>13回 身近な課題の政策立案</p> <p>14－15回 政策案の発表 まとめ</p> <p>※担当教員は全員保健所や市町村での勤務経験があり、この実務経験をもとに講義を行います</p>		
授業形態	講義・演習		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 今日の社会情勢を鑑み、医療、看護、保健、福祉等の課題を概観する。 看護関連の法制の制定・改正の経緯を理解する。 保健と福祉の関連する法制度の制定・改正の経緯を理解する。 看護関連の政策形成と看護職の役割を理解する。 身近な課題の政策案を立案する。 		
評価方法	授業への参加度（40％）、レポート（60％）		
教科書	看護サービス管理（第5版）、医学書院、2022 看護管理学習テキスト第1巻ヘルスケアシステム論、日本看護協会出版会、2022		
参考書・参考文献			
履修条件			
科目等履修			
履修上の留意点			
備考・メッセージ			

講義科目名称： 科学史

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	選択
担当教員			
◎浅野昌充			
		2セメスター	30時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	人類がものごとを科学として究明して来たその一般的な過程的構造を捉え、学問とは、科学とは、そしてその方法を理解していく。特に、自然研究を題材に運動・変化・発展としてあるものごとをその断片から正しく頭脳に構成していく能力である「弁証法」と「認識論」とを、それぞれの初歩から養成していく。
授業計画	1-4回 【科学としての弁証法の歴史】 学問の発展史における自然科学に焦点を当てて、世界史の中で概観し、弁証法の諸概念・諸法則を具体的に、わかりやすく学んでいく。 5-10回 【自然科学の歴史】 物理・化学・生物のいずれかに焦点を当て、人間の自然の弁証法的理解の流れを概観する。 11-14回 【法則化の理解】 事実に貫かれる法則性がどのようにたぐられるかを、自然科学史上のエピソードなどから見ていく。 15回 【総括】
授業形態	講義
到達目標	1. 自然科学史に関わる知識を一般教養化する。 2. 自然科学の法則の導出（＝論理化・法則化）過程を理解する。 3. 「弁証法」の基本を身に着ける。
評価方法	講義への取り組みおよび最終課題
教科書	講義・ゼミの時に指示。
参考書・参考文献	講義・ゼミの時に指示。
履修条件	—
科目等履修	可
履修上の留意点	
備考・メッセージ	合わせて、各人の個々の研究それぞれに役立つよう、研究方法論としてもゼミ形式で授業を進めていく。

講義科目名称： 情報学特論

授業コード：

英文科目名称： informatics

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	選択
担当教員			
◎長坂猛			
添付ファイル			

授業の目的・概要	先行研究の論文を読むときや、自分の研究をまとめる過程で必要となるような情報処理の基礎的な手法について学ぶ。文献検索、文書表現、基本的な統計量の計算、プレゼンなどについて、パソコンを用いた授業を行う。		
授業計画	1-3回	概論と基本操作 ワードプロソフトと集計ソフトの基本操作 報告レポートの構成 ネットワークやサービスの基本 文献検索	
	4-15回	データ集計と分析 データスタイルとグラフ描画・誤差表現 パレト図・度数分布図の作成と分析 移動平均によるバンドパスフィルター 指数化・変化率・寄与率などの数値指標計算 t検定・ χ^2 検定・分散分析 相関・回帰直線の信頼区間 Rを用いた計算と描画 スライド作成、画像編集など	
	16回	試験（もしくは課題演習）	
授業形態	パソコンを使用した演習が中心		
到達目標	(1) よく利用する機材やシステムなどの基本的な機能について知る。 (2) ソフトウェア間の連携を意識して、資料化やプレゼンの能力を向上させる。 (3) データ集計の技法を通して、分析能力を養う。		
評価方法	授業および課題への取り組みによって評価する。 成績評価＝参加姿勢（出席による）30%＋課題の提出70% 課題で重視する点：(1)課題の作成に演習内容が反映されているか、(2)分析や表現に工夫がなされているか		
教科書	とくに指定しない		
参考書・参考文献	とくに指定しない		
履修条件			
科目等履修	可		
履修上の留意点			
備考・メッセージ			

講義科目名称： 環境科学生命科学特論

授業コード：

英文科目名称： The Law of Life in "Notes on Nursing" by FN

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2	選択
担当教員			
◎小河一敏			
		2セメスター	30時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	ナイチンゲール著『看護覚え書』序章に説かれている「生命の法則」を「生体と環境との統一」という視座から理解する。
授業計画	<p>1回 【何故、「自然観」か —生命を守るために宇宙・地球を学ぶ意義—】 「個別科学としての看護学の構造」（『科学的看護論』）の土台には「自然観」が据えられている。これを具体的に表象化した図が『ナースが視る人体・病気』冒頭に掲載されている。ナイチンゲール看護論において、生命を守るために宇宙・地球というスケールの自然観から学ぶのは何故か、大きくイメージする。</p> <p>2-7回 【「健康の法則、すなわち看護の法則」を生活からつかむ —『看護覚え書』各論—】 本学学部学生が『看護覚え書』各論を日常生活を通して学んできた過程を題材に、「健康の法則、すなわち看護の法則」を「生体と環境との統一」という視座から学ぶ、または教える過程の構造をつかむ。</p> <p>8-9回 【「生命の法則」を生活からつかむ —『看護覚え書』総論—】 本学学部学生が『看護覚え書』序章・おわりにを、「健康の法則、すなわち看護の法則」の学びを土台に学んだ過程を題材に、「生命の法則」の実態を学ぶ、または教える過程の構造をつかむ。</p> <p>10-11回 【「生命の法則」から「健康の法則、すなわち看護の法則」を体系化する —人間観・生活観・健康観—】 本学学部学生が『看護覚え書』の学びを体系化した過程を題材に、「看護観」の土台となる「人間観・生活観・健康観」が築かれていく過程の構造をつかむ。</p> <p>12-14回 【『看護覚え書』から『看護学原論講義』へ —「人間の生活一般」の12項目—】 『看護覚え書』に基づいて築かれた「人間観・生活観・健康観」を、『看護学原論講義』（特に対象論）に基づいて深めていく。</p> <p>15-16回 【総括 —環境科学生命科学の学びとは—】 宇宙・地球スケールの「自然観」から「人間観・生活観・健康観」を築いてきた過程が、どのように看護ないし看護学教育に役立っていくか考察する。</p>
授業形態	講義・演習
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 「自然観」を土台に『看護覚え書』にある「健康の法則、すなわち看護の法則」を生活からつかむ。 『看護覚え書』序章・おわりにから「健康の法則、すなわち看護の法則」をとらえ返し、「生命の法則」をつかむ。 『看護覚え書』の学び(1.2.)を体系化し、看護観の土台となる「人間観・生活感・健康観」をつかむ。
評価方法	<p>【評価規準】 授業への参加状況 (60%)、レポート (40%)</p> <p>【評価基準】</p> <p>S: 「生活の体系係」を主体的に他者に指導・教育可能なレベルに達している。</p> <p>A: 「生活の体系係」構築過程を理解し、同僚・後輩スタッフ・患者・学生等へ指導でき始める。</p> <p>B: 「生活の体系係」が理解でき、自らの生活を健康にコントロールできる。その内容を根拠立てて他者に伝えられる。</p> <p>C: 「生活の体系係」が描かれ、安定的に自らの生活を健康に整えていくこと（セルフケア）ができる。</p> <p>D: Cに達しないレベル。</p>
教科書	<p>『看護学生、宇宙を学ぶ』小河一敏 著、(株)アノック</p> <p>『看護覚え書』ナイチンゲール著（訳本）、現代社</p> <p>『看護覚え書』に学ぶ生活科学ガイドブック 教員用 小河一敏 著、(株)アノック</p>
参考書・参考文献	<p>『看護のための「いのちの歴史」の物語』本田克也他、現代社</p> <p>『弁証法とはどういう科学か』三浦つとむ著、講談社</p> <p>『三浦つとむ選集5 ものの見方考え方』三浦つとむ著、勁草書房</p> <p>『なんごうつぐまささんが説く看護学科・心理学科学生への“夢”講義(1)・(2)』南郷継正著、現代社</p> <p>その他は授業で提示する。</p>
履修条件	—
科目等履修	可
履修上の留意点	2022年度授業は、2022年8月—9月の夏休み期間、ないし2023年2月—3月の春休み期間の集中講義を予定。履修者の都合により、開講時期・時間はフレキシブルに対応する。本学導入システムTeamsを用いた遠隔授業も可（2020年度は全16回を遠隔授業で実施した）。
備考・メッセージ	『看護覚え書』は看護者であれば知らない人はない書のように思いますが、しっかりと読みこんだ方は実は少ないということをし、これまで多くの看護者から聞きました。19世紀の古典で訳文も難しく無理の無いことかもしれません。しかし、本学の学部生は理解してきています。この授業では彼らの学びの過程を見ながら、つまり初心に戻っていただいて学生の学びを観念的に追体験していただくことによって、『看護覚え書』を学び直していただきます。そうすると、難解…と思われていたはずの文章が、意外にあっけなく…「なんだこういうことだったのか」と納得されることとなります。是非、楽しんで学んで下さったら…と願っています。

講義科目名称： 英語特別演習

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	選択
担当教員			
◎川北直子 ◎Joel Hensley			
		1 Semester	30時間
添付ファイル			

授業の目的・概要	1. To practice reading journals in English		
授業計画	1-3	【Intro to class How to do find journal articles (printed / online) How to do thesis search Selected readings and discussion of the topic】 Learn how to search articles in the library and online	
	4-14	【-Study individual reading topic given to each student-Oral review of individual reading topics】 Read full paper individually or in a group and review readings orally.	
	15	【Intro to writing abstracts and full paper in English】 -Learn basic rules of writing academic paper in English -Write abstract and references using sample paper.	
		Details of syllabus will be discussed with each student. Syllabus may vary according to student needs and English reading and communicational levels.	
授業形態	講義		
到達目標	1. To be able to find journal articles written in English independently 2. To be able to read journal paper in the professional area 3. To learn English expressions for academic purposes		
評価方法	1. Active participation in finding and reading journal articles 2. Contribution to the class based on reading assignments		
教科書	Articles from professional nursing journals (purchase not necessary)		
参考書・参考文献			
履修条件	—		
科目等履修	可		
履修上の留意点			
備考・メッセージ	We will make arrangement about time schedule individually. Participants are required to do reading assignment every week.		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	選択
担当教員			
◎大館真晴			
添付ファイル			

授業の目的・概要	日本語表現能力の向上を目的とする。母語によるコミュニケーション能力は、理解力・論理的思考力・伝達力などを総合的に必要とし、物事と直面する際の基礎となる能力である。この授業では、実践的にこれらの能力を向上させていきたい。
授業計画	<p>第1回 【会話と文章】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 会話と文章の区別の理解 3. 考えを文字化する訓練 <p>第2回 【文章の分類】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 目的によって異なる文章区分の理解 2. 読み手が期待する文章を書く訓練 <p>第3回 【事実と意見の区別】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「事実」と「意見」の書き分け 2. 「判断」と「客観性」についての理解 <p>第4回 【適切な語の選び方】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 曖昧さを避けた表現の習得 2. 感情表現を避ける技術の習得 <p>第5回 【読み手が理解しやすい文】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 正しくしく伝わる文の基本法則 2. 読み手に負担をかけない視点のとり方 <p>第6回 【読み手の期待に添って展開する文章】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 文と文を上手につなげる技術の習得 2. 読み手を引きつけながら展開する文章作法の習得 <p>第7回 【文体の統一】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 理論的な文書に求められる文体の習得 2. 文末表現以外でなければならない文体の統一 <p>第8回 【読点の打ち方】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 読点の役割の理解 2. 読み誤りがないように読点を利用する技術の習得 <p>第9～15回 【レポート・論文の書き方】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的な「型」の習得 2. 基本的な「型」を使った実践訓練
授業形態	講義
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 文章構成能力の養成 2. 適切な用語の選択と、正確な語法を用いる能力の養成 3. 合理的で適切な手段を選択する能力の開発などを行う <p>上記のを行いつつ、日本語表現力とともに、論理的思考能力・問題解決能力を磨くことを最終目標とする。</p>
評価方法	授業内外での学習成果物（50%） 課題レポート（50%）
教科書	特になし
参考書・参考文献	特になし
履修条件	特になし
科目等履修	特になし
履修上の留意点	特になし
備考・メッセージ	特になし

講義科目名称： 社会保障制度特論

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	選択
担当教員			
◎佐藤信人			
添付ファイル			

授業の目的・概要	我が国における今日の社会保障制度は第二次世界大戦以降に構築されたが、現下の超少子高齢化の人口構造と経済の低迷により制度の持続可能性を高めるために給付の重点化・効率化が進んでいる。社会保障制度の変革期にある今日、今後の社会保障制度のあり方やその中での「保健」の位置づけについて考えることを目的とする。
授業計画	1回 イントロダクション 2-3回 人口構造の変化と社会保障・機能 4-6回 現行社会保障制度の構造・概要 7-8回 医療保険制度 9-11回 介護保険制度・ケアマネジメント・地域包括ケアシステム 12-13回 地域共生社会・地域づくり 14回 社会的援護を要する人々、公的扶助（生活保護）制度 15回 まとめ
授業形態	受講者と協議
到達目標	1. 人口構造の変化と現行の社会保障制度について説明できる。 2. 社会保障制度の機能・成立要素について説明できる。 3. 社会保障制度を研究する意味について考え説明できる。 4. あるべき社会保障制度について提案できる。
評価方法	参加度とレポートにより総合的に評価
教科書	講義において適宜指定
参考書・参考文献	必要に応じて紹介
履修条件	
科目等履修	可
履修上の留意点	
備考・メッセージ	原則として、一方的な講義ではなく受講者と共に創り上げる授業としたい。